平成２４年度
岡山市ＥＳＤ・ユネスコスクール推進事業

# 藤田地区ＥＳＤ・ユネスコスクール

# 研究集録

～つながり　感じ　高める子～

第２集

# 目　　次

1　はじめに　　藤田地区ＥＳＤ・ユネスコスクール事務局
岡山市立第三藤田小学校　　校長　矢吹　憲策 ---- 1

2　各学校の取り組み

岡山市立第一藤田小学校
○ユネスコスクール事業報告 ---------- 5
○各学年ＥＳＤカレンダー ---------- 7
○４年生・５年生指導案 ---------- 13

岡山市立第二藤田小学校
○ユネスコスクール事業報告 ---------- 21
○各学年ＥＳＤカレンダー ---------- 26
○３年生・５年生指導案 ---------- 32

岡山市立第三藤田小学校
○ユネスコスクール事業報告 ---------- 41
○各学年ＥＳＤカレンダー ---------- 44
○５年生・６年生指導案 ---------- 50

岡山市立藤田中学校
○ユネスコスクール事業報告 ---------- 61
○各学年ＥＳＤカレンダー ---------- 63
○地域の自然・歴史・文化の学習プロジェクト ---------- 70

岡山県立興陽高等学校・岡山市立藤田公民館
○実践報告　岡山県立興陽高等学校 ---------- 77
岡山市立藤田公民館 ---------- 79

3　おわりに　　岡山市立藤田中学校　校長　山下　道徳 ---- 81

# はじめに

我が国が国内のNPO等からの提言を受け，2002年の第57回国連総会において，2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年」（以下「ESDの10年」）を提案し，各国政府や国際関係機関の賛同を得て持続可能な開発に関する世界首脳会議実施計画に盛り込まれることになったことは，周知の通りです。

さらに2003年の第58回国連総会，次ぐ2004年の第59回国連総会においても「ESDの10年」を推進するための決議案を我が国が提出し，それぞれ採択され，また2005年には「ESDの10年」の推進機関として指名されたユネスコにおいて，国際実施計画が策定・承認されました。

しかし，持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）の提案国として迎える最終年2014年を間近に控え，学校現場ではどのように取り組まれているでしょうか。完全実施２年目となる新学習指導要領においても，ESDの位置づけが見え隠れする中，現場での更なる研究の深化と実践が期待されます。

各教科・領域に属さないいわゆる「各種教育」と同様に，各教科や各領域がクロスする場面を指導の場と捉え，適切な指導が望まれます。「クロスカリキュラム」と呼ばれる所以です。「持続可能な開発」を実現するための知識体系は，従来の個々ばらばらの独立した知識では不可能です。それぞれの知識を融合・応用させ，発展させなければなりません。そのために，ESDの学習の場においても，「育む力」と捉え研究を進めています。※各教科・領域において「身につけた力」をもとに，すすめる学習

とある，環境保護活動を活発にされている婦人部の団体が，あるイベントで廃油石けん作りの取組を紹介されていました。ESDが何のことか分からない一般参加の方から，「ESDって何なんですか？」との質問に，「そりゃなぁあんた，ええーせっけんーでぇーの略じゃがなぁ」と。うぅん！「なるほど，分かりやすい！」

岡山市では，「サステナガール（サステナビリティー＋ガール）」と呼ばれる，環境への配慮や地産地消，伝統文化の継承などで持続可能な社会を目指す女性も指名され，啓発活動もなされているようです。

本藤田地区でも，ESD教育の実践を始めてはや５年を終えようとしています。

生活科や総合的な学習においては，ESDの視点で見直した単元構成をし，授業研究・実践をしているところです。特に総合的な学習では，「３年；地域学習，４年；環境学習，５年；食・農業学習，６年；国際理解」を中心的な共通学習活動と位置づけ，中学校区をあげて研究を進めてまいりました。

地域の豊かな人的・物的資源をさらに有効活用し，これからの次代を担う子どもたちを，地域の皆様方と共に育んでいきたいと，切に願います。

最後になりましたが，大変貴重なご指導・ご助言をいただきました岡山大学大学院教育学研究科 准教授 川田力 先生，並びに 同 研究科 ESD協働推進室 コーディネーター 柴川弘子 先生をはじめとし，指導・助言を賜りました先生方，労を惜しまずご尽力いただきました関係諸機関並びに関係の皆様方，そして研究推進並びに授業実践に当たってくださいました各学校の先生方に対しまして，衷心より感謝をいたしております。

ありがとうございました。

藤田地区ESD地域連絡会　事務局
岡山市立第三藤田小学校
矢　吹　憲　策

# 岡山市立第一藤田小学校

# 岡山市立第一藤田小学校

## 1　本校のユネスコスクールとしての活動（ＥＳＤ）の特徴

本校では、「藤田という地域の持続可能性を考えることを通して、子どもたちが総合的・多面的に考え行動していくことのできるような普遍的な力を身につけさせる」ことを長期目標として、同じ中学校区の３小学校、中学校、農業科のある高校と岡山大学で連携をはかり活動に取り組んでいる。また、中学校区ＥＳＤでめざす子ども像「つながり　感じ　高める子」に近づけるために、３小学校で各学年の共通テーマを決めて、合同で教職員研修をして実践してきた。生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域に愛着を持ち、地域のために活動できる児童の育成をめざして、体験活動を多く取り入れ、様々な立場の人々と共に学習に取り組んだり、地域住民と一緒に学んだりする学習活動を工夫している。

## 2　ユネスコスクールとしての活動（ＥＳＤ）の全体計画

○　１・２年生：地域の人々と野菜を育てよう（１年 10 時間　２年生 27 時間）1～2 学期

地域の安全安心ネットワークの方に、玉ねぎの植え付けを教えてもらったり、自分たちで栽培したさつまいも・大根・トマト・なすなどの調理を手伝ってもらったりした。また２年生では学区探検を通して、地域の農家と交流し、野菜を育てる喜びや知恵にふれた。

○　３年生：藤田の宝ものを見つけよう（50 時間）…1～3 学期

藤田地区の農作物について調べたり、地域の用水の水質や生き物について調べたりした。地域の人が環境を守るための努力していることを知った。地域の安全安心ネットワークの方の力を借りて、大豆の栽培や豆腐づくりを行った。これらの活動や食べ物マップ作りを通して、藤田地区にある食べ物・自然・人という宝ものに気づき、藤田地区の素晴らしさを実感し、愛着を持つことができるようにした。

【　3・4 年生　水辺の学校　】

○　４年生：干拓のまち～　藤田　～

１）ごみってなあに（35 時間）…６・７月

３年生とともに地域の用水で「水辺の学校」を体験したり、製紙会社の出前授業を行ったりした。用水の汚れやゴミなどの環境問題について探求し、自分たちの生活を振り返り、校内のリサイクル運動や中学生との合同クリーン作戦など、自分たちができる活動を考え実践した。また県立興陽高等学校が取り組んでいる「菜の花プロジェクト（搾油体験）」に参加し、環境を守るための最先端の研究にふれることで、地域から地球の環境問題にも目を向けた。

２）藤田ってどんなところ（10 時間）…2 学期

親子で地域の干拓の遺跡をめぐる「親子サイクリング」を行い、干拓の歴史や遺跡の役割を理解し、それを保存し続けようとする人々の思いを知り、地域や保護者に発信した。

３）どんなことに困っている（25 時間）…3 学期

アイマスク・車いす体験や地域にあるデイサービスセンターへの訪問を通して、さらに住みよい町にするための地域の方の思いにふれさせ、地域を守っていくために自分たちに

できることを考えていく。

○　５年生：藤田再発見プロジェクト（55 時間）…1～3 学期

　　―　活動事例として後述　―

○　６年生：地球再発見プロジェクト（50 時間）…1～3 学期

今世界が抱えている問題（環境問題、貧困の問題など）を調べ、ユニセフなど専門機関の学習をすることにより児童の視野を広げた。そして自分たちのできることを行ったり、地域発信したりしながら、今までの自分の生き方やこれからの生き方について考えた。

３　特徴的な活動（ＥＳＤ）の事例の紹介

５年生の「藤田再発見プロジェクト」では、まず、「田んぼの学校（稲作体験）」やアヒル農法の見学で、環境にやさしい農業の在り方について調べた。次に天満屋のバイヤーの話を聞いたり、藤田地区の主要な農作物である米・レタス・玉ねぎ・なすなどの農家を実際に訪問し、栽培方法や農業への思いなどをインタビューしたりする活動を行った。こうした活動を通して、藤田という地域の「食・農業」に対する価値を再認識することをねらった。３年生での食べ物マップや４年生での「水辺の学校」を体験した活動が、フィールドワークをすることでつながり、「藤田はすごい」という地域を誇りに思う気持ちや地域を愛する気持ちが実感できた。そして、未来へつなげていくためには自分たちに何ができるかを考えていった。

【　５年生　フィールドワーク　】

４　今年度の成果と課題

①学校としての成長

・ＥＳＤカレンダーを作成することで、全職員が学校全体の活動内容を系統的に共有することができるようになってきた。

・前年度の実践をもとに、よりスムーズに地域と結んだり、学習の流れや単元計画を考えたりすることができた。

・地域の事務局と地域連携担当者が窓口となり、地域と小学校を結ぶ協力体制が整いつつある。

・中学校区の小・中学校と興陽高校とのつながりが定着してきた。

②子どもの成長

・様々な人との交流によって、コミュニケーション力が育つ機会がもてた。とくに５年生は興陽高校の生徒と３回交流をもち、まとめの段階でも協力してもらって壁新聞を完成することができた。

③課題

・地域の協力者が高齢者のため、世代交代の時期がきている。

・つけたい力の見直しと評価についての検討が必要である。

ESDカレンダー　第1学年　　第一藤田小学校

| 教科領域 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | | なぞなぞあそび | すきなものおしえて | | おはなしきいて | しらせたいなみせたいな | みいつけた | | | | いいことといっぱいい一年生 |
| 算数 | | | | | | | | | | | | |
| 生活 | | きれいにさいてねたくさんさいてねん | | なつだいっしょにあそぼうよ | いきものとなかよし | たのしさいっぱいあきいっぱい | あきのおもちゃだいしゅうごう | みんないっしょにタマネギうえよう | | | ふゆをたのしもう | |
| 特別活動 | | | そらまめアラスカまめでてこい | そらまめをむこう | | | 学習発表会 | | | | | |
| 道徳 | おはよう | | | きゅうしょくじまん | そらをみあげて | 十七年もまっていたんだ | みてみてこんなのみつけたよ | | | | | |
| 音楽 | | かたつむり | | うみ | 七夕 | | きらきらぼし | | | おしょうがつ | ひなまつり | |
| 図工 | | | | | | | | | | | | |
| 体育 | | | | | | | | | | | | |

コミュニケーション能力
自尊感情
確かな学力

ESDカレンダー　第2学年

第一藤田小学校

| 教科領域 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | 今週のニュース | かんさつ名人になろう | ともこさんはどこかな | | | あったらいいなこんなもの | | 友だちのことしりたいな | | | みんなできめよう | 楽しかったよ2年生 |
| 算数 | | | | | | | | | | | | |
| 生活 | | ドキドキわくわく学くたんけん<br>夏のやさいをそだてよう | | やさいをしゅうかくしよう | | やさいのことをつたえよう | | もっとなかよし学くたんけん | 冬のやさいをそだてよう | 聞かせて一藤のすてき | やさいをしゅうかくしよう | |
| 特別活動 | | | えだ豆をむこう | | | やさいを食べよう | | | | | | |
| 道徳 | | あいさつ | | かもうのクス | | | | | | 学校のまわりには | | 空からのプレゼント |
| 音楽 | | | | | | | 虫のこえ | | | 夕やけこやけ | | 春がきた |
| 図工 | | | | | | | | | | | | |
| 体育 | | | | | | | | | | | | |

コミュニケーション能力
自尊感情
確かな学力

ESDカレンダー　第3学年

第一藤田小学校

| 教科領域 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | きちんとつたえるために | 気になる記号<br>手紙を書こう | | | 私たちの学校行事インタビュー | すがたをかえる大豆 | 食べ物のひみつを教えます | | しりょうから分かったことを発表しよう | 本で調べてほうこくしよう | |
| 算数 | | | 一億までの数 | | | よみとる算数 | | | 重さ | 表とグラフ | | よみとる算数 |
| 社会 | たんけんに行こう | | 岡山市ってどんなところ | | | | ひとびとのくらしをささえるし | | | 昔の道具と人々のくらし | | |
| 理科 | 春のしぜんにとび出そう | 植物を育てよう | たねをまこう<br>どれくらい育ったかな | 花がさいたよ | | 実がたくさんできたよ | | | | | | |
| 総合 | | 藤田のたからものを見つけよう<br>水辺の学校 | 野菜について調べよう | 大豆を育てよう〈レタス・いちご・国定農産〉・豆腐作りをしよう | | 藤田の農作物について フィールドワーク マップに表し 発表する | | | 藤田の宝ものについて伝えよう | 二藤小，三藤小の人に教えてあげよう | | |
| 特別活動 | | キャベツを育てよう<br>2年の終わりから継続 | | | | | レタスを育てよう | | | | | |
| 道徳 | | | | けんたがわすれていたもの | | | 祝日って何？ちいきにつたわる料理 | | | あんな雪こんな雪すんでいる町の自然じまん | | |
| 音楽 | 春の小川 | | | | | | | | | | | |
| 図工 | | | | | | | | | | | | |
| 体育 | | | | | | | | | | | | |

コミュニケーション能力
自尊感情
確かな学力

ESDカレンダー　第4学年　　第一藤田小学校

| 教科領域 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | よりよい学級会 | 読書生活をしよう | 新聞をつくろう | | | 「だれもがかかわりあえるように」調べて発表しよう | | 仕事リーフレットを作ろう | | 聞き取りメモの工夫 | ことわざブックを作ろう | |
| 算数 | | 一億をこえる数 | 折れ線グラフ | | | 読み取る算数 | 概数とその計算 | | | | 読み取る算数 | |
| 社会 | ゴミは | 水はどこからどこへ | | | | 社会科見学 | 海を陸地に | | | | | |
| 理科 | | 電気のはたらき | | | | | | | | | | |
| 総合 | 干拓のまち　藤田 | ごみってなあに | | | | 藤田ってどんなところ | | 福祉について考えよう<br>車いす・アイマスク体験・目の不自由な人の話・点字・デイサービス訪問 | | | | |
| 特別活動 | 学級目標を決めよう | | | 中学生とクリーン作戦 | | | 親子サイクリング | | 校内リサイクル運動<br>ペットボトルのキャップを集めよう（古紙・牛 | | | |
| 道徳 | | 江戸のエコライフ | 僕たちの手で環境を守りたい | ほたるの星 | | 海を渡ってきた生き物たち | | 口で歩く人 | | 生きる | | |
| 音楽 | | とんび | | まきばの朝 | | | もみじ | | | 日本の音楽に親しもう | さくらさく | |
| 図工 | | | ポスターをかこう | | | | | | | ハッピーカード | | |
| 体育 | | | | | | | | | | | | |

コミュニケーション能力
自尊感情
確かな学力

ESDカレンダー　第5学年　　第一藤田小学校

| 教科領域 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | 生き物は円柱形<br>きいてきいてきいてみよう | 百年後のふるさとを守る | 次への一歩活動報告書 | | 自分の考えをまとめて討論しよう | インターネットを使って | グラフや表を引用して書こう | 私たちの図書館改造提案 | ゆるやかにつながるインターネット | すいせんします | |
| 算数 | | | 合同な図形 | | | 面積 | | 割合 | | | | |
| 社会 | さまざまな土地のくらし | | 米作りのさかんな地域 | | | | これからの食料生産 | | | 情報を伝える | | |
| 理科 | | 発芽と成長 | メダカを飼って卵を産ませよう | | | 花から実に | | | | | | |
| 総合 | | 藤田再発見プロジェクト<br>田んぼの学校 | 菜の花プロジェクト | アヒル農法 | | フィールドワーク（興陽高校）<br>田んぼの学校 | | | | | | |
| 特別活動 | | | | | | | | | 親子活動おにぎりパーティー | | | |
| 道徳 | 桜を守る | | | | | | 地球を救おう子ども会議 | | | ネチケット | | |
| 音楽 | | | | | | | | | 日本と世界の国々の音楽 | | | |
| 図工 | | | | | | | | | | | | |
| 体育 | | | | | | | 保健「心の健康」 | | | | 保健「けがの予防」 | |
| 家庭科 | | | | | | | | ごはんとみそしるをつくろう<br>みそ料理とぞうに<br>藤田のお米と他の地域のお米を食べ比べてみよう | | | | |

コミュニケーション能力
自尊感情
確かな学力

ESDカレンダー　第6学年　　第一藤田小学校

| 教科領域 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | 学級討論会をしよう | ようこそ私たちの町へ | | | 平和について考える | | | | 自分を見つめ直して | 今、わたしは、ぼくは | |
| 算数 | | | | | | | 資料の調べ方・資料の整理 | | | | 地球と算数 | |
| 社会 | | | | | | | | アジア太平洋に広がる戦争 | あたらしい日本へのあゆみ | 私たちのくらしと政治（基本的人権・日本国憲法・平和への願い） | 世界のなかの日本と私たち（国連と日本の役割） | |
| 理科 | 地球と生き物のくらし・自然と人のくらし | | | | | | | | | | 人と環境 | |
| 総合 | 地球再発見プロジェクト<br>世界の諸問題について考える | | 個人でテーマを決めて調べ、発表する。 | | | | つながりについて考えよう | | | ありがとう集め・感謝の気持ちを行動に表そう<br>幸せについて考えよう | | |
| 特別活動 | | | | | | | | | | | | |
| 道徳 | | 目の前にあることを一生懸命やる | 世界がもし100人の村だったら | 21世紀をになう若い人たちへ | | 科学は平和のためにある | ほしいって何？必要って何？ | 助け合って生きる | 人と人をつなぐ地域通貨 | 卒業まで50日 | | |
| 音楽 | | | | 我は海の子 | | | ふるさと | | 越天楽今様 | | | |
| 図工 | | | | | | | | | | 伝え方をたのしもう | | |
| 体育 | | | | | | 病気の予防 | | | | | | |
| 家庭科 | | | | きれいにしよう | | | | | | | 自分の生活や地域の生活を見つめてみよう | |

コミュニケーション能力
自尊感情
確かな学力

## 第４学年　総合的な学習の時間　指導案

平成２４年１１月３０日（金）第１・２校時　４Ａ教室　　指導者　山本真由美

1　単元名　　干拓のまち藤田　～ごみってなあに～

2　単元目標

○　地域の人と進んでかかわる中で，自分が住んでいる藤田のたからものについて知り，藤田のよさに気づき，愛着を感じることができる。

○　体験活動を通して，環境について関心をもち，藤田の環境を守るための取り組みを考えることができる。

○　自分の伝えたいことを整理してわかりやすく表現することができる。

3　単元について

本単元は，ごみってなあに（環境）・藤田ってどんなところ（地域）・どんなことに困ってる（福祉）の３つの柱で構成している。

１学期は，「水辺の学習」で，大曲の用水にすむ生き物見つけをした。この体験を通して，用水をきれいにすることは１０年後，２０年後の藤田の姿につながっていくことを学習したり，地域の方の藤田を守っていこうという思いに気づいたりすることができた。

また，「ごみの辞典づくり」や明和製紙の出前授業「紙はごみじゃない」の活動を通して，ごみとはなにか，ごみを減らすために自分たちにできることはなにかを考えてきた。

自分たちにできることとして，１学期末，２学期にかけて，中学校との交流活動である「合同クリーン作戦」や「校内でのリサイクル活動」を実践している。

また，「親子サイクリング」でボランティア先生の話を聞いたり，実際に藤田の歴史を聞いたり，遺産を見たりすることで，藤田のたからものに対する地域の方の思いを感じ取ることができた。

３学期は，アイマスク・車いす体験や地域にあるディサービスセンターへの訪問を通して，さらに住み良いまちにするための地域の人の思いにふれさせたい。

これらの活動を通して，地域の人の藤田に対する思いに気づき，環境について考え，地域のたからものを守っていくために自分たちができることは何かを考えさせたい。

4　児童の実態

児童は３年生の総合的な学習の時間に，「藤田のたからものを見つけよう」というテーマで，学区で栽培されている農作物を調べて，食べ物マップをつくる学習をしている。この活動を通して，藤田の豊かな自然や食べ物，それを支える地域の人々など，自分たちの住んでいる藤田のよさに気づくことができている。

しかしながら，その藤田のよさを持続していくために，環境を守っていくことの大切さについて考える経験は，ほとんどしていない。そこで「水辺の学習」をきっかけに「ごみってなあに」というテーマのもと，単元をスタートした。出前授業を受けたり，リサイクル活動を体験する中で藤田の環境を守るために自分たちにもできることを考えようとする児童もみられるようになってきた。

5　研究主題との関連

中学校区ＥＳＤのめざす子ども像「つながり・感じ・高める子」，さらに本校の研究主題「確かな学びを実感する児童の育成～言語活動の充実をめざして～」にせまるために，体験活動を通して，地域の人とかかわったり，友だちと話し合ったりする等のコミュニケーションの場を設定する中で，自分なりの意見をもつことができるようにしていきたいと考えている。

6　本時の学習について

本時では，研究主題にせまるために，以下のことを工夫している。

・　本単元の学習をする前と後の考えの変化を自分自身で気づくことができるように，１学期に使用したワークシートをもう一度記入するようにした。
・　一人ひとりが自分の考えを簡単に書くことができるように，付箋を使用する。また，ＫＪ法を用いることでグループの話し合いを活発にしたいと考えている。
・　話し方の手順を示したり発表の仕方カードを準備したりすることで，積極的な話し合いや自信を持って発表ができるようにする。

7　本時案

| 目標 | 今まで取り組んできた活動から自分の生活を振り返り，友だちと話し合うことで，藤田の環境を守るための取り組みを考えることができる。 |
|---|---|

| 学習活動 | 教師の支援 | 評価 |
|---|---|---|
| 1　今まで，学校で取り組んできた活動を振り返る。 | ○前時に記入した「ごみの辞典づくり」カードから，ごみに対する考えが変わってきた児童を紹介することで，一人ひとりの考えの変化を意識させることができるようにする。<br><br>○「水辺の学習」「紙はごみじゃない」「合同クリーン作戦」などの学校での取り組みを思い出させ，この活動を行ったことで，ごみに対する意識が変わってきたことに気づかせるようにする。 | |
| 自分の生活をふり返ろう。 | | |
| 2　家庭での自分の生活や行動の変化について考える。 | ○学校で取り組んだ活動を通して，自分の生活の中でごみに対する意識が変わったり，家庭で取り組んだりしていることはないかと投げかけることで自分の生活について振り返ることができるようにする。<br>○「衣・食・住」を意識させることで，自分の生活を振り返る視点をもたせるようにする。 | |
| 3　環境を守るために，自分にできることを考え，グループで話し合う。 | ○「むだ遣いをしない」「ごみを出さない」などの視点を例示することによって，考えが「リサイクル」だけにとどまることがないようにする。<br>○一人ひとりが自分の考えをもつことができるように，自分の考えを付箋紙に書く時間を確保する。<br>○グループの意見をみんなで考えながら，わかりやすく整理していくことができるように，「衣・食・住」で色分けした画用紙を準備する。<br>○ＫＪ法を用いることで，グループの話し合いが活発になるようにする。<br>○話し合いが停滞していたり，考えがまとまりにくいグループに対して，助言をする。<br>○発表の仕方カードを準備することで，自信を持って発表ができるようにする。<br>○早くまとめて，発表練習をしているグループを，賞揚する。 | ・自分の考えを付箋に書くことができたか。（観察・付箋）<br><br>・グループの意見の共通点を話し合おうとしている。（観察） |
| 4　グループで出た考えを発表する。 | ○グループの発表を黒板にまとめていくことで，クラスとしての考えを共有することができるようにする。 | |
| 5　本時の学習を振り返り，実践につなげる。 | ○黒板にまとめたみんなの考えをもとに，今の自分にできることを決めて，ワークシートに書かせることで実践への意欲につなげたい。 | ・自分が取り組んでいきたいことを決めることができたか。（観察・ワークシート） |

8　成果と課題

・　本年度は，３年生と合同で「水辺の学習」の活動に取り組んだ。この体験から，用水をきれいにすることは未来の藤田の環境を守っていくことにつながっていることに気づいたり，地域の方の藤田を愛する思いを知ったりすることができた。また，この活動をきっかけに，ごみや環境保護に意識をつないでいくことができた。来年度は，単元構成の見直しから，「水辺の学習」は３年生で取り組む予定である。

・　明和製紙の出前授業「紙はごみじゃない」は，講師の先生が子どもたちに分かりやすく話してくださったり，古紙を使ったはがき作りを実演してくださったりしたことで，ごみとは何か，環境を守るために自分たちにできることは何かを考えるきっかけの時間となった。また，手作りはがきをつくって，地域のディサービスや児童館にプレゼントとして渡す活動も行った。これは，自分たちの行動が地域や人につながる活動となった。

・　「校内リサイクル運動」では，古紙・牛乳パック・ペットボトル・キャップの回収を行った。子どもたちは，ポスターを作ったり，回収を呼びかけたりと意欲的に活動した。回収したものは，今年度は，明和製紙や回収所に持っていったが，他の回収場所も探っていきたい。

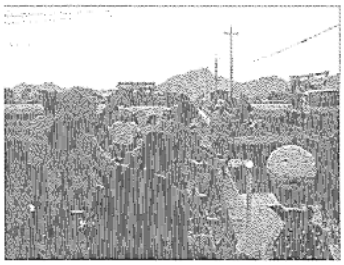
・　「中学校とのクリーン作戦」を行ったが，子どもたちの目的意識がやや低いまま，活動に入ってしまったことや作業場所が比較的きれいであること，暑い時期あったことなどの観点から，達成感としては低かったように思う。来年度は，作業場所の確認や子どもの意識のつながりを考えて取り組みたい。しかし，小中学生が交流を深めながら作業するには有効な取り組みであったと思う。

・　「藤田ってどんなところ」では，地域の方の話を聞き，地域の歴史や遺産の宝物に目を向けていく活動である。３年生の「藤田のたからものを見つけよう」の活動で見つけた自然や食べ物，地域の人々という宝物を想起させるところから活動に入っていった。３年生の活動が４年生の活動の深まりにつながっていく。その都度，活動や思いをふり返るためにも，３年生のファイルを４年生でも活用していきたい。

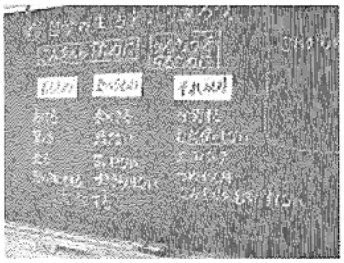
５月　水辺の学習

６月　出前授業
紙はごみじゃない

７月　中学校との
クリーン作戦



１０月　親子サイクリング



１１月　自分の生活をふり返ろう

## 第５学年　総合的な学習の時間　指導案

平成２４年１０月２５日（木）第２校時 理科室　指導者　Ｔ１　難波俊昭
Ｔ２　小山和代

1　単元名　　藤田再発見プロジェクト　～フィールドワーク～

2　単元目標

○　自分が住んでいる藤田地区の農業について理解を深め，藤田への愛着や誇りをもつことができる。

○　農業の今日的な課題に気づき，これからの藤田の農業について自分なりに考えることができる。

○　地域の人と進んでかかわったり，いろんな方法で外部へ発信したりすることができる。

3　単元について

本単元は，興陽高校の取り組み・田んぼの学校・フィールドワークの３つの柱で構成している。

１学期は，興陽高校で「菜の花プロジェクト」として４年生の時に植えた菜の花を刈り取り菜種油の搾油体験をしたり，環境に優しい農業として「アヒル農法」について見学・学習したりしている。また，「田んぼの学校」としては，講師の先生にお世話になってもみまき・田植えを体験し，自分たちも米作りを行うことで，生産者の方の思いを体感できるようにしている。

２学期は，主として「フィールドワーク」の活動を行い，地域の農家を訪ねて農業の現状や農業に対する思いなどをインタビューすることによって知り，藤田のよさを感じると共に，地域への愛着や誇りをもたせるようにさせたい。

３学期は，日本の農業に目を向けて各自がテーマを決めて調べ，そして最後にはまた，「藤田に農業は必要か？」という中学校区での５年生共通のテーマに戻り，これから先の藤田の農業についてどうあればよいのかを自分たちなりに考え，それに至るまでの課題は何か，そのために自分たちができることは何なのかを考えさせたい。

4　児童の実態

児童は３年生の総合的な学習の時間に，「藤田のたからものを見つけよう」というテーマで，学区でどんな農作物が栽培されているかを調べ，それを食べ物マップに表す学習をしている。また，レタスや大豆を生産者の方にお世話になって実際に育てることも経験している。また４年生では，学区内の用水の生き物を調べ，環境について考える学習も行っている。これらの活動を通して，豊かな自然やそれを支える地域の人々など，自分たちの住んでいる藤田のよさに気づくことができている。

しかしながら，藤田を代表する産業である農業について，詳しく調べたり深く考えたりすることはあまり経験はない。そこで「藤田に農業は必要か？」という５年生共通のテーマのもと単元をスタートしたが，この問いかけに対してはどの児童も藤田に農業は必要と答えており，これからの藤田の農業について多くの児童が関心をもっている。

5　研究主題との関連

中学校区ＥＳＤのめざす子ども像「つながり・感じ・高める子」，さらに本校の研究主題「確かな学びを実感する児童の育成～言語活動の充実をめざして～」にせまるために，まず，地域の人とかかわったり友達と話し合ったりするなどのコミュニケーションの場を多く設定していきたい。そこから，地域の課題に対して自分なりの考えをもち，行動していける力を育てていきたいと考えている。

6　本時の学習について

本時では，各グループがフィールドワークで知り得た情報を紹介し合う活動を行い，５年生みんなでそれを共有していくようにしたい。また，児童が苦手としている話し合い活動を取り入れ，コミュニケーション能力をつけていくようにしたい。

7　本時案

| 目標 | グループの友達と話し合ったり，他のグループの発表を聞いたりすることを通して藤田のよさや農家の方の思いを知り，地域への愛着をもつことができる。 |
|---|---|

| 学習活動 | 教師の支援（○T1●T2） | 評価 |
|---|---|---|
| 1　本時の学習活動とめあてを確認する。 | ○本時は，フィールドワークで知った情報についてグループで話し合い，全体に紹介する学習であることを確認する。<br><br>○「藤田はすごい」という地域を誇りに思う気持ちや，地域を愛する気持ちを５年生みんなで大切にしながらこの単元を進めていくために，このめあてを設定したことを確かめ，学習への意欲をもたせる。 | |
| 「これはすごい」と思ったことや，とっておき情報を紹介し合おう。 | | |
| 2　話し合いの仕方について確認する。 | ●話し合いの流れを書いたカードを掲示し，スムーズに話し合いが進むようにする。 | |
| 3　グループで話し合う。 | ○●話し合いの話題（フィールドワークで知った農作物に関することや，生産者の方に関することの中から，すごいなあと思ったことや，他のグループに知らせたいなあと思うこと）について，よく確認してから話し合いに入るようにさせる。<br><br>○司会者を中心に話し合い，自分たちのグループが全体に紹介したい内容をまとめて，全体の場で司会者が発表することを知らせておく。<br><br>○●発表しやすいように，各自が事前に整理したワークシートを用意して話し合いに望ませる。<br><br>○●話し合いが停滞していたり，紹介することがまとまりにくいグループに対して，助言をする。 | ・自分の思いをグループの中で話すことができたか。 |
| 4　グループで話し合ったことを発表する。 | ○司会者が発表しやすいように，発表の仕方についてアドバイスする。<br><br>●グループの発表を整理して板書する。 | |
| 5　本時の学習をふりかえる。 | ○ワークシートに学習の振り返って感想（藤田のよさや生産者の方の思い）を書かせ，本時のまとめとする。 | ・藤田のよさや生産者の方の思いに<br>着目できたか。 |
| 6　次時の学習について知る。 | ○藤田はすごいという思いを単元を通して持続させながら，これを５年生以外の人に伝える方法として壁新聞にまとめることを伝え，次時は記事の分担や下書きをしていくことを伝える。 | |

8　成果と課題

・　本年度取り組んだ「田んぼの学校」や「フィールドワーク」は，３年生での「食べ物マップづくり」，４年生での「水辺の学校」などの体験学習を生かして取り組むことができた。単元の導入で「藤田に農業は必要か」との問いからスタートした学習は，前学年までの活動からスムースにつながり，児童は学習への意欲や目的意識を持って取り組むことができた。

・　フィールドワークでは，農家の方に実際にインタビューしたことで，地域の方の思いに触れ，藤田への愛着や誇りを持てるようになった。また，農業の現状を直接聞くことができ，それを自分なりにとらえ，考えることもできた。

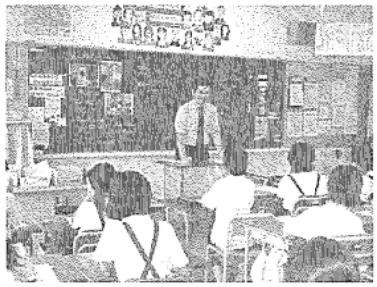
・　新聞にまとめる学習では，それぞれのグループが得たとっておき情報を紹介し合う活動を事前に設定したことで，児童全員が情報を共有することができた。そして新聞づくりへの意欲が高まると共に，内容を焦点化した新聞を作成することができた。また，新聞をつくる際，興陽高校の生徒さんにアドバイスをしてもらったことで，まとめる力もついた。ただ，まだ話し合う力は十分に身についておらず，話し合い活動を充実させていく必要がある。

・　「田んぼの学校」では講師の三宅さんからお米作りを学び，実際に体験することで苦労や工夫，収穫の喜びを味わい，感謝の気持ちもしっかり表すことができた。また天満屋のバイヤーさんからは，藤田のレタスやタマネギなど他の地域に誇れる農産物について学び，改めて藤田のすばらしさを知ると共に，地産地消への関心も高まった。

・　５年生の活動は，地域の方や興陽高校の生徒さんなど学校外の方と関わる機会を多くもつことができ，児童もそれを楽しみにしていた。一緒に活動することで進んで質問したり，自分から積極的に声をかけたりする児童が増え，自然とコミュニケーション能力もついてきた。

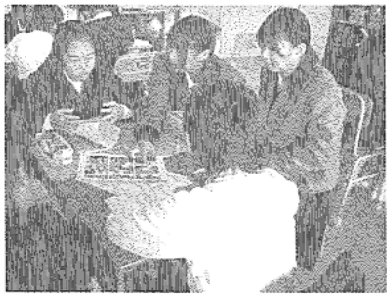
・　新聞を公民館に展示したことで，農家の方の思いや農業の現状，自分たちの考えを多くの方に見ていただき，うれしい感想もいただいた。
　しかし今後は，地域の方とさらにどう関わり，どう実践していくかが課題である。フィールドワークで農家の方から「ごみを捨てないで」とか「花を植えてほしい」などのメッセージも頂いており，藤田の農業のために自分たちのできることを JA ともタイアップしながら実践し，地域へ発信していく必要がある。

６月　田植え



９月　天満屋バイヤーさん出前授業

１０月　フィールドワーク



１１月　興陽高校生との交流学習

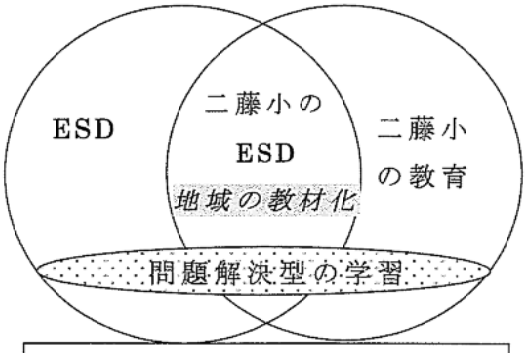
# 岡山市立第二藤田小学校

# 岡山市立第二藤田小学校

## 1 本校のユネスコスクールとしての活動・ESD の特徴

本校では，今年度ユネスコスクールの認定を受け，「地域の教材化」と「問題解決型の学習」の２点を軸に研究を行ってきた。「地域の教材化」としては，ESD カレンダーを作成し，地域を身近なものとして捉え，「藤田のことを見て，知って，考えて，活動する」ことを通して，地域を愛する心を育んできた。「問題解決型の学習」としては，自ら課題を発見し，根拠をはっきりさせて多面的・総合的に考える力を育てることで，将来，持続可能な社会を実現するために自分たちにできることは何かという目的意識をもった活動へとつなげてきた。

校内研究構想図



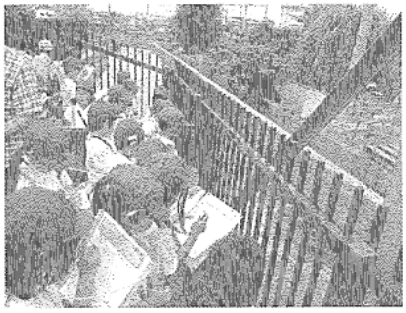

「藤田のことを見て，知って，考えて，活動する」

## 2 ユネスコスクールとしての活動・ESD の全体的な実施状況

| 学　年 | 時　期 | 主　な　活　動 |
|---|---|---|
| １年生 | １学期 | みんなで通学路を歩こう・みんなの公園で遊ぼう・草花や虫をさがそう・さつまいも植え（保育園と交流） |
| | ２学期 | 秋をさがそう・秋のおもちゃを作ろう・見つけた秋を紹介しよう・さつまいも草抜き→収穫・調理（保育園と交流） |
| | ３学期 | 外で遊ぼう・冬の公園に行こう・新しい１年生を迎える準備をしよう |
| ２年生 | 前期 | 野菜を育てよう・学区探検をしよう（学区を探検し，藤田は野菜作りが盛んで野菜作りの名人がいることを知る。） |
| | 後期 | 町の人に会いに行こう・もっと町の人となかよくなろう・ふり返ろう町のすてきな出来事・町のすてきを伝えよう（藤田は農業がさかんなこと，いろいろな作物が育てられていることを知る。） |
| ３年生 | １学期<br>２学期 | 二藤学区の宝を見つけよう（ポンプ場を見学し，藤田の用水路の水の源を知り，その水を使って農作物を育てている農家があることや，様々な生き物を育んでいることを調べる。） |
| | ３学期 | 探せ！地域の達人（見つけた二藤学区のお宝食べ物・生き物グループに分かれ，二藤のお宝地図を作成する。） |
| ４年生 | 前期 | われらエコ探検隊（身近な事象から環境に関心をもち，ごみ分別の大切さを知る。ごみ減量化や環境を守る取り組みについて自分にできることを考え，実践する。） |
| | 後期 | みんなで作ろうバリアフリー社会（バリアフリー社会について知り，相手の立場や気持ちを理解しながら人とかかわっていくことの大切さに気づき，みんながよりよく生きるために自分にできることを考え，実践する。） |
| ５年生 | １学期 | めざせ！米博士（学区の農家で米作りの体験をさせてもらい，そこで米作りについての苦労や工夫などについてインタビューしながら，地域の稲作について理解を深める。） |
| | ２学期 | 発見！探検！藤田の農業（学区の農家にフィールドワークに出かけ，そこで農業についての苦労や工夫などについてインタビューしながら，地域の農業について理解を深める。） |
| | ３学期 | 未来へ続く藤田の農業（藤田の農業の将来について考えを出し合い，地域に根ざした農業への思いをまとめる。） |
| ６年生 | １学期<br>２学期 | MOTTAINAI プロジェクト（今まで当たり前と思っていた暮らしの便利さが，実は当たり前のことではなく，多くの人々の苦労や工夫で成り立っていることに気づき，身の回りの暮らしを見つめ直す。） |
| | ３学期 | 世界の国々に目を向けよう（世界にも視野を広げ，私たちにできることを探る。） |

## 3 特徴的な活動・ESD事例の紹介

### 第3学年　単元名「二藤学区の宝をみつけよう」



二藤学区には用水路が張り巡らされ，それに沿うように田んぼや畑が広がっている。「用水路は何のためにあるのか。」「用水路の水はどこからきているのか。」等の疑問を解決するために学区内にあるポンプ場へ見学に行き，管理をしている方に詳しく話を聞くことができた。また，用水路の水は何に使われているのかということを探るために，用水路に沿って探検することで「用水路や田んぼにいる生き物」「用水路近くで栽培している花・野菜」「史跡や農業とかかわりがある建造物」に目が向いた。それら3つのグループがもった疑問や課題を解決することが次の活動になった。

課題解決の方法として，本やインターネットで調べる方法もあるが，「地域のことに詳しい方」に話を聞く方法で答えを見つけた。学区に在住の方5人に来ていただき，二藤学区は用水路の水によって農業が行われ，多くの生き物が住み，土地の神様としての「地神様」や「水神様」を祀って藤田を大切に思う人々がいることをお話していただいた。また，自分たちが知ったことを友達やおうちの人に知ってもらいたい，他の第一藤田，第三藤田学区はどんな学区か伝え合いたいという気持ちをもち，資料を交換するなどして交流をした。

これまでの学習で「二藤の宝」は自然が豊かだけでなく，「地域のことをよく知る人」も宝であることに気がついたので，3学期は「地域の達人」という単元で地域の人との関わりを通して「地域の人」も宝であることを実感した。また，4年生以降のESDの素地として「二藤学区ってすごい」「二藤学区が好き」という気持ちをもたせることができた。

## 4 今年度の成果と課題

①学校としての成長

今年度は，校内研究の中心にESDの考えを位置づけて研究を進めてきた。ESD部会を立ち上げ，地域を学ぶ，地域に学ぶという視点で単元構成を組み立て，地域の教材化を軸としたESDカレンダーの作成にも取り組んだ。各学年の授業研究では，ESDでつけたい力を明確にし，生活科や総合的な学習の時間を中心としながら，他教科・領域とのつながりも視野に入れた取り組みを展開することができた。

②子どもたちの成長

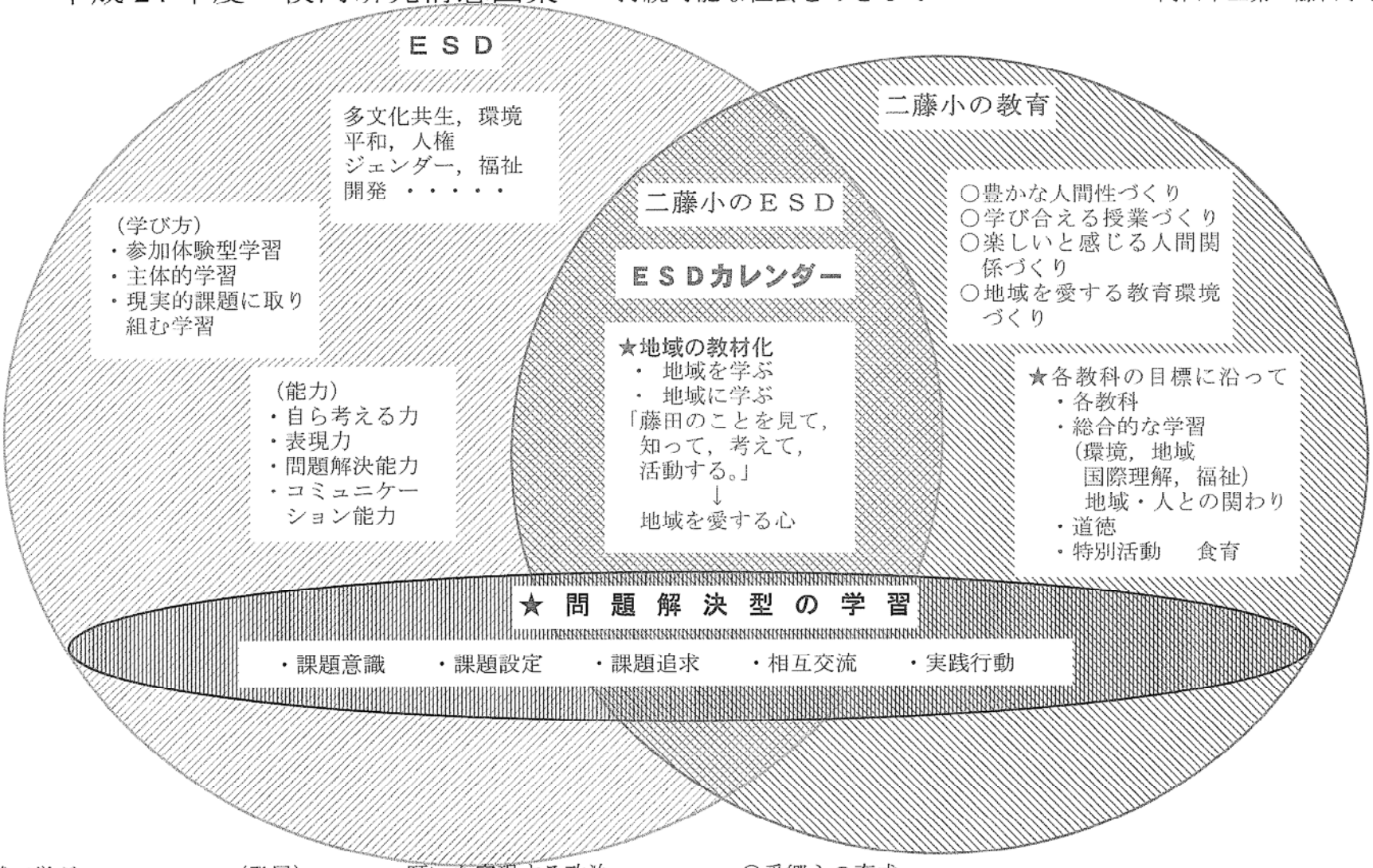
地域を教材とした学習活動の中で，目の前の課題に向かって自分なりに解決策を考え，見つけた方法で実践・行動していく力の高まりが感じられた。様々な地域の自然，人々とのふれあいを通して，ふるさと藤田のよさを再認識することができた。自分の思いを相手にわかりやすく伝え合う活動からコミュニケーション力の向上も見られた。

③課題

ESDカレンダーの有効的な活用について改善を加えていく必要がある。問題解決型の学習を展開していくことで，ESDでつけたい力をより一層明確にしていきたい。

# 平成24年度　校内研究構想図案　持続可能な社会をめざして

岡山市立第二藤田小学校




○地域で学ぶ　→　（発展）　→　願いを実現する政治
○自分の郷土がすき　→　他の地域も大切にしたい

○愛郷心の育成
藤田を愛する　…　岡山を愛する　…　日本・世界を愛する

◎ 持続可能な社会の実現のために，まず自分たちの郷土を見つめよう

# 第二藤田小学校　ＥＳＤカレンダー「地域」の分類について

ＥＳＤ部会

## ◎ＥＳＤカレンダーの中で「地域」を教材化していく事について

第二藤田小学校では，「地域」を教材化していく上で次のような３つの側面から教材化を進めることとする。

**①地域の環境**
**②地域の文化，歴史**
**③地域の経済，社会**

### １　第二藤田小学校の子どもの「地域」に対する実態は…。

①について
・魚とり，虫とりをした経験がある。
・水の汚れ，地域の環境等に目を向ける機会が少ない。
・家のまわりの事は，ある程度分かるが，学区として考えていく知識は乏しい。

②について
・元々，この地域に長年住んでいたわけではなく，移り住んできた子が多い。そのため地域の歴史に触れる機会は少ない。

③について
・農業がさかん（田畑が多い）地域であるのに，家庭が農業に従事している家はほとんどない。

### ２　ＥＳＤの取組を通じて，第二藤田小学校の教師が目指している子ども像は…。

①について
・地域の生物多様性に気づくとともに，水の汚れ等の学区の環境の悪化にも気づいてほしい。

②について
・干拓地を切り開いてきた先人の努力，知恵に気づいてほしい。

③について
・地域の宝である農業にしっかり目を向け，誇りを持って欲しい。

このように，「地域」に対する子どもの実態と教師が目指している子ども像には大きな開きがある。そこで，ＥＳＤの取組を通じて，地域を愛する心を育てていく必要があると考え，その手立てを次のように考えた。

## 3　子どもを育てていく手立てとして…

子どもを育てていく手立てとして，各学年の地域の「環境」「社会･経済」「文化･歴史」の領域に次のような課題を設定した。

| | 地域の環境 | 地域の社会・経済 | 地域の文化・歴史 |
|---|---|---|---|
| 3年 | ･二藤学区の宝を見つけよう<br>（藤田の用水路について知ろう） | ･二藤学区の宝を見つけよう | ･二藤学区の宝を見つけよう<br>・探せ！地域の達人<br>（フナ飯，地神水神） |
| 4年 | ・われらエコ探検隊 | ･みんなで作ろうバリヤフリー社会 | ・干拓の歴史，塩害，水不足 |
| 5年 | ・未来へ続く藤田の農業 | ・発見，探検，藤田の農業 | ・発見，探検，藤田の農業 |
| 6年 | ・MOTTAINAIプロジェクト（環境） | ・MOTTAINAIプロジェクト（食糧問題） | ・MOTTAINAIプロジェクト<br>（水，世界との関わり） |

第1学年　ESD(地域教材化)カレンダー　　岡山市立第二藤田小学校

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

**生活**

学校に行こう（**社**）　みんなで通学路を**歩こう**（**社・経**）　草花や虫をさがそう（**環**）　秋をさがそう・葉っぱや実で遊ぼう・見つけた秋を紹介しよう（**環**）外で遊ぼう・冬の公園に行こう（**環**）

みんなの公園で遊ぼう（**環**）　虫をさがそう・虫と仲よくなろう（**環**）　秋のおもちゃを作ろう（**環**）　新しい1年生を招待しよう（**社・経**）

新しい1年生といっしょに遊ぼう（**社・経**）

新しい1年生を迎える準備をしよう（**社・経**）

さつまいも植え（保育園と交流）→→→　草ぬき →→→→　収穫・調理（保育園との交流）

**図工（環）**
「しぜんとなかよし」
草や砂などの自然の材料での活動

**学校行事（社・経）**
安全パトロール

**学校行事（社・経）**
開校記念式

**道徳**
「ぼくのあさがお」
自然愛護

**道徳**
「かたつむりの親子」　自然愛護

**学校行事（環）**
生活科見学

**道徳**
「れんげまつり」
郷土愛

**学校行事（社・経）**
きらきらフェスティバル

**図工（社・経）**
「ゆめのまちさんちょうめ」
箱などを集めて素敵な町作り

**学校行事（社・経）**
感謝の会

**図工（社・経）**
「にっこりニュース」
生活の中で楽しかったことなどをかく。

**図工（社・経）**
「心をこめてプレゼント」
お世話になった人へプレゼント作り

**国語**
「しらせたいなみせたいな」
自分の文で説明する。

**国語**
「おみせやさんごっこをしよう」
簡単に説明する文章を書く
尋ねたり応答したりする。

**国語**
「いいこといっぱい1年生」
経験したことを文章を書く。

**算数**
「よみとるさんすう（1）」
文章から必要な情報を読み取る。

**算数**
「よみとるさんすう（2）」
絵図から必要な情報

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

# 第2学年　ESD（地域教材化）カレンダー

岡山市立第二藤田小学校

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

**生活　社・経　環**
野菜を育てよう　町探検に行こう　野菜のことを伝えよう
野菜の世話をしよう　野菜を収穫しよう
学区探検をしよう　（たまねぎ）
自分自身で野菜を育て、その苦労を知る。学区を探検し、藤田は野菜作りが盛んで、野菜作りの名人がいることを知る。

**生活　社・経**
町の人に会いに行こう　振り返ろう町のすてきな出来事
もっと町の人となかよくなろう　町の人に伝える準備をしよう
なかよくなった人のことを紹介しよう　町のすてきを伝えよう
藤田は農業が盛んなこと、いろいろな作物が育てられていることを知る。

**道徳**
4-4町のたからもの
郷土愛、愛国心

**学校行事**
開校記念式

**学校行事**
社会科見学

**算数**
ひょう・グラフと時計
表やグラフの書き方

**算数**
よみとるさんすう（1）
文章から必要な情報

**算数**
よみとるさんすう（2）
絵図から必要な情報を読み取る。

**国語**
はっぴょう名人になろう
わかりやすいまとめ方の工夫

**国語**
あったらいいなこんなもの
説明の工夫

**国語**
しかけカードの作り方
わかりやすい説明の工夫

**国語**
たのしかったよ1年生
経験したことを文章を書く。

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

# 第3学年　ESD（地域教材化）カレンダー

岡山市立第二藤田小学校

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

**総合的な学習の時間**　（社・経）（文・歴）（環）
「二藤学区の宝を見つけよう」
二藤の学区の特徴に目を向け、二藤の学区で大切にしているもの、人などのよさに気づき地域に愛着を持つことができる

**総合的な学習の時間**（文・歴）
「　探せ！地域の達人」
二藤学区で技を持つ人を訪ね、交流する中でその人の生き方やよさにふれ，学区への愛着をもつことができる

**社会**（社・経）
たんけんしゅっぱつ
学区の特徴への気づき

**社会**（社・経）
岡山市って
どんなところ
岡山市全体からから
見た藤田学区の特徴
への気づき

**社会**（社・経）
ものをつくるひと
びと

**社会**（社・経）
品物はどこから
社会科見学
地産地消

**社会**（文・歴）
昔の道具と
　暮らし調べ
先人の知恵
七輪体験

**社会**（文・歴）
人々から受け
ついだ祭り
はだかまつり

**理科**（環）
春のしぜんにとびだそう
地域の生き物への気づき

**音楽**（環）
春の小川
自然のよさや変化
への気づき

**道徳**（文・歴）
けんたがわすれていたもの
学区のよさに目を向ける
心情を育てる

**道徳**（文・歴）
わたしたちの後楽園
学区のよさを伝える
事について考える

**音楽**（文・歴）
せんりつづくり
（太鼓）
伝三郎太鼓を
知る

**音楽**（文・歴）
日本の音楽に親し
もう
伝え愛され続ける
伝統の音楽を知る

**学校行事**
きらきらフェスティバル
「大切にしたいもの」へ

**学校行事**
開校記念式

**学校行事**
学校公開日

**特活**（文・歴）
ふなめし
郷土料理を実際に
作り味わう

**国語**
手紙をかこう
地域の人に手紙を書こう

**国語**
わたしたちの学校行事
インタビューしよう

**国語**（文・歴）
本で調べて、ほうこくしよう
昔使われていた道具について調べたことをまとめよう

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

# 第4学年　ESD（地域教材化）カレンダー

岡山市立第二藤田小学校

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

**総合的な学習の時間（環）**
「われらエコ探検隊」
身近な事象から環境に関心をもち、ごみ分別の大切さを知る。ごみ減量化や環境を守る取り組みについて、自分にできることを考え、実践する。

**総合的な学習の時間（社・経）**
「みんなで作ろうバリアフリ―社会」
バリアフリー社会について知り、相手の立場や気持ちを理解しながら人とかかわっていくことの大切さに気づき、みんながよりよく生きるために自分にできることを考え、実践する。

**社会（環）**
「ごみはどこへ行くの」
ごみの処理の工夫，再利用の大切さ

**社会（環）**
「水はどこからどこへ」
浄水場や浄化センターのしくみ、水資源の大切さ

**社会（歴・文）**
「海を陸地に」
児島湾の干拓、先人の働き

**社会（社・経）**
「考えよう！
これからの岡山県」
これからの岡山県

**理科（環）**
「電気のはたらき」
光電池のはたらき

**図工（環）**
「ポスターで思いを伝えよう」
ごみ，水・・・

**道徳（環）**
「江戸のエコライフ」
日本の文化・伝統のよさ

**道徳（環）**
「ぼくたちの手で環境を守りたい」
環境を守ることの大切さ

**道徳（社・経）**
「口で歩く人」
生きることの意味や尊さ

**道徳（社・経）**
「つばさをください」
障害者への思いやり

**学校行事（環）**
社会科見学
環境センター，浄水場

**学校行事**
開校記念式

**学校行事**
学校公開日

**学校行事**
きらきらフェスティバル
どんぶらこ収穫祭

**国語**
「新聞を作ろう」
新聞の特徴や作り方

**国語（社・経）**
「だれもがかかわり合えるように」
点字，発表会

**国語**
「仕事リーフレットを作ろう」
取材、写真と文章で説明する仕方

**国語**
「聞き取りメモの工夫」
聞き取りメモの取り方

**算数**
「折れ線グラフ」
かき方，読み方

**算数**
「面積」
a，ha

**算数**
「がい数とその計算」
がい数で表すよさ，計算の仕方

**算数**
「垂直・平行と四角形」
垂直・平行の性質

**算数**
「よみとる算数(2)」
表・グラフの活用

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |

# 第5学年　ESD（地域教材化）カレンダー

岡山市立第二藤田小学

4月　5月　6月　7月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

**総合的な学習の時間**『藤田に農業は必要か？』（社・経）
「めざせ！米博士」
学区の米農家で米づくりの体験をさせてもらい，地域の稲作について理解を深める

**総合的な学習の時間**『藤田に農業は必要か？』（社・経）
「発見！探検！藤田の農業」
学区の農家にフィールドワークに出かけ，地域の農業について理解を深める

**総合的な学習の時間**『藤田に農業は必要か？』（社・経）
「未来へ続く藤田の農業」
藤田の農業の将来について考えを出し合い，地域に根ざした農業への思いをまとめる

**社会（社・経）**
「さまざまな土地のくらし」
特色ある地域のようす
人々の生活と自然

**社会（社・経）**
「米作りのさかんな地域」
日本の米作り
働く人のくふうや努力

**社会（社・経）**
「これからの食料生産」わたしたちの食生活

**社会（環）（社）**
「国土の開発と自然」
身のまわりの自然

**社会（環）（社）**
「自然を守る運動」
人々のくふうや努力

**理科（環）**
「植物の発芽と成長」
種子の中の養分
発芽・成長の条件

**理科（環）**
「花から実へ」
植物の受粉・結実

**図工（社・経）**
「心に残ったこと」
農業体験の絵

**家庭（社・経）**
「はじめてみようクッキング」
調理用具の安全な使用

**家庭（社・経）**
「できるようになったかな」
家庭の仕事
家族としての協力

**家庭（社・経）**
「元気な毎日と食べ物」
食事や食品への関心

**家庭（社・経）**
「家族とほっとタイム」
家族とのふれ合いや団

**道徳（歴・文）**
「親から子へ，そして孫へと」

**道徳（歴・文）**
「正月料理」
郷土愛・愛国心

**学校行事**
開校記念式

**学校行事**
学校公開日

**学校行事**
きらきらフェスティバル

**国語（歴・文）**
「百年後のふるさとを守る」
生き方・考え方

**国語**
「豊かな言葉の使い手になるためには」
意見の根拠

**国語**
「グラフや表を引用して書こう」

**国語**
「ゆるやかにつながるインターネット」

**算数**
「平均とその利用」
平均の求め方

**算数**
「見積もりを使って」
仮平均による見積

**算数**
「割合」
割合・百分率の意味
帯・円・棒グラフ

**算数**
「よみとる算数(2)」
表・グラフの活用

4月　5月　6月　7月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

第6学年　ESD（地域教材化）カレンダー　　岡山市立第二藤田小学校

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

**総合的な学習の時間（環）**
「MOTTAINAIプロジェクト（今まで，当たり前と思っていたことが・・・）」自分たちのくらしを見直そう

**総合的な学習の時間（環）　（社・経）　（歴・文）**
「世界の国々に目を向けよう」

**理科（環）**
「地球と生き物のくらし」
地球の環境の大切さ

**図工（環）**
「ポスターで思いを伝えよう」
環境等への思いをポスターに

**理科（環）**
「生き物のくらしと環境」
水，空気，食べ物との関連

**家庭（環）**
「きれいにしようクリーン大作戦」
家庭，地域のク

**社会（社・経）**
「江戸時代を生きた人々の工夫や努力」
米作りの工夫　5年

**社会（社・経）（歴・文）**
「わたしたちの願いと政治のはたらき」

**社会（社・経）**
「世界の中の日本」
わたしたちにできる国際協力

**理科（環）**
「人と環境」
人のくらしと環境

**図工（環）**
「伝え合おう私が作ったマーク」

**家庭（環）**
「考えようこれからの生活」

**道徳（環）**
「地球があぶない」
自然愛と環境保全

**道徳（社・経）**
「うちらネコの手ボランティア」
勤労，社会への奉仕

**道徳（社・経）**
「ほしいって何？必要って何？」
望ましい生活習慣，

**道徳（環）**
「愛華さんからのメッセージ」

**学校行事**
**開校記念式**

**学校行事**
学校公開日

**学校行事**
きらきらフェスティバル
どんぶらこ収穫祭

**国語**
「ようこそ，わたしたちの町へ」
・地域を紹介するガイドブック作り

**算数**
「資料の調べ方」
「よみとる算数」
・地域の農作物等の

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |

第３学年　「総合的な学習の時間」　学習指導案

平成２４年　１０月１０日（水）４校時　　場所　３Ｂ教室
指導者　宮木　由美子

1　単元名　二藤学区の宝を見つけよう

2　単元目標と育てたい力

二藤学区にある用水の周りを探検することで，学区の様子（自然・人）に関心をもち，追及していく活動や体験活動を通して，地域への愛着をもつことができるようにする。

育てたい力については，本校で取り組んでいるＥＳＤの考え①地域を教材化した学習②問題解決型学習を取り入れて，本時はこの単元において育てたい力の中でも特につけたい力を下記のように考えた。

**問題解決能力**

・　学区探検を通して二藤学区の特徴に気づき、用水路の水によって育まれる自然や人々の営みについて関心をもち課題を見いだし，見通しをもって情報を集め追究していくことができる。

**伝え合う力**

・　調べ活動やまとめ活動においてよりよい活動にするためのアイデアを出し合ったり協力したりして活動を進めることができる。
・　調べて分かったことや相手に伝えたいことを，図や写真を用いてまとめて伝えることができる。

3　単元で育てたい力

（1）単元について

１学期は，社会科の単元「学区探検にしゅっぱつ」をきっかけに，二藤学区の特徴を調べた。様々な特徴の中でも，二藤学区は「用水路」と「田んぼ」が多いという特徴に目を向け，用水路の水はどこから来ているのか，何のためにあるのか予想を立てて話し合った。その疑問を解決する方法として，用水のもとを見学することで笹が瀬川の水をポンプ場で取り入れていること，それを藤田の学区に放水していることを知った。

ポンプ場の役割や用水路の水の出所をまとめた子どもたちから，用水路の大量の水は何に使われているのか疑問が出た。そこで用水路の周りを探検して用水路の周りには多くの作物が育てられ，またさまざまな生き物が生息していることが分かった。用途が分からない設備や石碑を見つけることもできた。

２学期は，用水路周りの見学でとった写真を元に，はっきりしなかったことやさらに調べたいことを調べる方法を考え，地域の方や専門家に尋ねたり，図書資料やインターネットを使って調べたりする。調べたことは，二藤学区の宝として他の学年の人や一藤，三藤の友だちに教えてあげることを目的に，まとめる活動をしたい。また藤田の郷土料理「ふなめし」を作って食べる体験活動をすることで，地域の人の生活の知恵に触れたり，より二藤学区のよさに気付いたりするようにしたい。また，本時ではわからないことを調べるための方法に必要なことを考えていくことでこれからの総合的な学習や他教科でも必要とされる課題解決学習の基本を身につけさせたい。

（2）児童の実態

３年生の児童は，２年生の生活科において，学区に出かけて虫採りをしたり，茅原さん宅でタマネギ掘りを体験したりした。学年が上がり普段の生活でも行動範囲が広くなり学区のあちこちで遊ぶことはあるが，いつも目にする風景が当たり前の風景であるだけに，二藤学区のよさや特徴としては捉えられていない。

今年度になって，社会科がはじまり，学区のことについて話し合ったときに，家の周りのことは分かるが学区の特徴やよさは捉えておらず，もっと調べたい，知りたいという気持ちを強くもつことができた。

疑問に感じたことは，意欲的に調べて分かりたいという思いの強い学年であるという実態を生かして，図書資料だけでなく人との関わりを通して課題を解決していく活動を多く取り入れたい。

4　研究テーマとの関わり

（研究テーマ）

自他を大切にし，ともに高め合っていこうとする子どもの育成
～互いの思いや考えを伝え，比べ合い，共感し合うコミュニケーション活動の充実～

本時では次のような活動を大切にすることによって研究のテーマに迫ることができると考えた。

・自分の考えをもつこと。
・自分の考えを相手に伝え相手の考えをしっかり聞くこと。
・自分と相手の考えに同じところや違うところがあることに気づくこと。
・違うところについては課題として話し合うことでより良い考えがうまれ解決することに喜びを感じる体験をする。

総合的な学習の時間においては，次のように指導の工夫をした。

1　自分の考えを持つ工夫
○　本時の活動内容については，前時から子どもたちに「どのような方法が考えられるか」と話題を振っておくことで前時から本時への見通しをもち，１週間の間に考えをもてるようにする。

2　自分の考えを相手に伝え，相手の考えを聞く工夫
○　付箋を使うことで，自分の考えをグループ活動において出しやすくする。
○　まず自分の考えをもち，グループで話し合い，全体の場で検討する形を総合的な学習の時間だけでなく，他教科でも行う。

3　違うところについては課題として話し合うことでより良い考えがうまれ解決することに喜びを感じる体験をする工夫
○　本時において，子どもたちが考えた方法を実行するには，様々な課題が出てくる。それらの課題をグループ内での話し合いでまず解決し，解決しない場合は全体の場で解決を求めるなど，課題を互いに悩み考えながら解決方法を探す活動にする。

単元構想図

| 学期 | 月 | 単元名・時数・学習活動 | 他教科との関連 |
|---|---|---|---|
| 1学期 | 4 | ・「きらきらの学習」ってどんな学習でしょう（1）（オリエンテーション）<br>用水の水は、どこからやってくるのだろう？<br>・学区地図を使っての、用水の広がりを知る（2）<br>・用水の水はどこからやってくるのか予想する（4） | 社会<br>「たんけんに　しゅっぱつ」<br>理科<br>「春のしぜんにとびだそう」 |
| | 5 | 用水のもとを管理している人に話を聞いてみよう。<br>・ポンプ場見学　（2）<br>・わかったことをグループごとに画用紙にまとめる，発表する。（4） | 社会<br>「岡山市ってどんなところ」 |
| | 6<br>7 | 用水の水は、何に使われているのだろう。<br>・用水の水が何に役に立っているのか予想して話し合う。（1）<br>・　実際に用水路の周りを歩いて気がついたことや発見したことをデジカメで撮る。（5）<br>・集めた資料を分析して、新たな課題を持つ。（3） | 学活<br>「デジカメの使い方」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2学期 | 9<br><br><br><br><br><br><br><br>10<br><br>11<br><br><br><br><br><br><br><br>12 | 用水の周りで見つけたものを詳しく調べよう（7時間）<br>・用水路周りをもう一度探検して，変化に気付いたり課題をもったりする。<br>・詳しく調べる方法や手順を話し合う。（本時）<br>・調べるために必要な準備をする。<br>○生き物グループ<br>・用水や田んぼにいる生き物（鳥・魚・貝など）について体験活動（観察会）を通して調べる。<br>○作物グループ<br>・用水の周りで育てていた野菜や米について作っている人にインタビューをして調べる。<br>○ナニコレグループ<br>・用水の周りにあった史跡や汲み上げ用ポンプについて詳しい人に話を聞いて調べる。<br>グループで調べたことを、友だちに伝えよう　（6時間）<br>・調べたことの中で何を伝えたいのか内容や方法を考える。<br>・クラスごとに「ぼくのわたしの藤田の宝マップ」等にまとめ，発表会をし、友達に伝える。<br>・発表に使った模造紙などは、廊下に掲示し、お互いに見合えるようする。<br>藤田の郷土料理を知ろう　（3時間）内1時間特活<br>・ふなめしの作り方を知り，実際に作って味わう。 | 国語<br>「私たちの学校行事～インタビューをしよう～」<br>算数<br>「よみとる算数」<br><br>国語<br>「本で調べてほうこくしよう」<br><br>道徳<br>「けんたがわすれていたもの」<br>社会<br>「品物はどこから」 |
| 3学期 | 1<br><br><br>2<br>3 | 藤田の達人を見つけよう（8時間）<br>・藤田の人材に目を向け、家の人や近所の人にインタビューをして、達人情報を手に入れよう。<br>・どの達人との体験をしたいのかを決めて、グループでお願いの手紙を持って行こう。<br>達人とのふれあい活動を楽しもう（4時間）<br>・2日に分けて、グループごとにそれぞれの達人の先生とのふれあい活動をする。<br><br>達人に教えてもらったことや体験したことを新聞にまとめよう　（2時間）<br>・ふれあい活動のグループごとに新聞を作り，友だちに知らせる。<br>・達人の先生に手紙と新聞を贈って感謝の気持ちを伝える。 | |

2学期の始まりから本時までの児童の意識の流れや教師の支援

| 教師の支援 | 児童の意識の流れ |
|---|---|
| **用水路の周りには，色々な物があったね。たくさん写真に撮ったけれどこれをどうしようか？** | グループに分けたらどうかな？<br>分けたら3つくらいにわかれたね。 |
| **分けた後どうするの？** | 分からないものがあったから，もっと調べてみたい。<br>もう一度たんけんして，変わったところがないか調べたい。 |
| **またまたたくさん写真を撮ったね。2ヶ月前と比べてみてどうかな？** | 変わったところもあるよ。<br>まだ写真を撮っただけでは，わからないことがある。ぼくは○○について調べたい。 |
| **調べてどうするの？どうやって調べるの？また写真に撮ったらいいのかな？** | 友だちや他の学年の人にも知らせたい |
| **知らせたらどんないいことがあるの？** | よくわかってもらえる<br>二藤学区に詳しくなってもらえる<br>もっと好きになるかも。 |
| **じゃあ，もっとすきになってもらえるように，調べていきましょう。** | |
| **どんなことを調べたい？（内容）** | 田んぼにいた生き物の名前，種類を知りたい<br>どうやって○○を作るの？<br>「ふしぎなもの」の正体を知りたい<br>なんであそこに石が置いてあるの？ |
| **どうやって調べるの？（方法）** | インターネット！本で調べる！人に聞く！もう一度いってしらべる！ |
| **調べるのはいいけれど，すぐに調べることができるかな？** | だれにきくの？パソコンの使い方は？どんな本を使うの？<br>よく考えてみると，お願いをしたり，友だち同士で協力したりしなくちゃいけないなあ。 |

本時案

| 目標 | 自分が考えた調べる方法について，困難なことや問題点を出し合い，解決方法を話し合う活動を通して，調べ活動で大切なことに気付きこれからの学習の見通しをもつことができる。 |
|---|---|

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| 1　本時のめあてを確かめる。 | ・前時を振り返り，自分の調べたいことを再確認することで，本時は調べる方法を考える時間であることを確かめる<br>・数名の児童から，方法を聞き「すぐできそうか」と尋ね，方法は思いつくが困ることも出てきそうだという見通しを持たせる。<br>調べる方法の「こまった」をかいけつしよう。 |
| 2　自分なりに思いつく調べる方法を考える。 | ・自分がこれだと思う方法を青色，調べるとき「困りそうなこと」「わからないこと」は黄色の付箋に書くことで，次の活動で意見を出しやすくする<br>・方法が思いつかない児童には，１学期の学習の時に分からないときにはどうやって解決したのか思い出すことができるようにする。<br>・早く書くことができた児童には，今までにその方法で調べて，うまくいったことやうまくいかなかったことについて，なぜそうなったのか考えるように促す。<br>・細かい段取りまで書けている児童を把握しておき，授業の終わりに称揚できるようにする。 |
| 3　同じことを調べるグループで方法と困りそうなことを出し合う。 | ・付箋に書いたことを「調べる方法ワークシート」に出し，同じものがある場合は重ねておくようにする。<br>調べる方法 ／ 困りそうなこと・わからないこと<br>インターネットで調べる ／ パソコンを使ったことがない<br>本で調べる ／ どんな本があるんだろう。<br>図鑑ってどうやって使うの？<br>知ってそうな人に聞く ／ 誰に聞けばいいのかなあ<br>どうやって聞いたらいいのだろう |
| 4　グループで解決の方法を出し合う。 | ・グループででてきた「こまった」を解決する方法を話し合い，思いついたらワークシートに書き込んでいくようにする。<br>・これまでの経験でうまくいったことや事前にお家の人に聞いてきたことを思い出すように促し，解決方法につなげる。<br>・その調べる方法を可能にするには，「どんな準備がいりそうか考えてみよう」と助言をする。<br>・グループ内で解決したことと，解決しなかったことをはっきりさせて解決しなかったことはみんなに相談してみようと助言する。<br>・担任は机間巡視をして，解決していないことについて他のグループで解決方法を出せそうなところを把握しておく。 |
| 5　グループでは解決しなかったこと，どうすればいいのか分からなかったことについて全体の場で話し合う。 | ・「私たちのグループは○○の方法でしようと考えました。でも△△で困っています。」の話形を提示することで意見を全体の場で言いやすくする。<br>・調べることが違ってもいいので，困ったことについて解決方法が思い浮かんでいたり，グループで出ている場合は発言するように促す。<br>・話し合いが進まない時には，担任は把握していた班について発言するよう促す。 |
| 6　本時のまとめをする。 | 困りそうなこと・分からないこと ／ 解決の方法<br>パソコンを使ったことがない ／ 先生に教えてもらおう<br>○○君が知っているから教えてもらおう。<br>どんな本があるんだろう。 ／ 小西先生に調べられそうな本を聞いてみよう。<br>図鑑ってどうやって使うの？ ／ 図鑑のひき方を教えてもらおう。<br>誰に聞けばいいのかなあ ／ ○○さん，に教えてもらえるかな。<br>どうやって聞いたらいいのだろう ／ お願いをしなくてはいけないな。<br>インタビューの練習をしなくちゃ。<br>・今日の学習を振り返り，次の時間への見通しを書くようにする。<br>・　次の時間の活動への見通しを書けている児童を紹介し，次時への意欲づけにする。<br>評価<br>調べる方法について「こまっていたこと」が解決し，次の活動への見通しをもつことができる。（ワークシート） |

反省と考察

○グループで話し合いをする活動はコミュニケーション能力を育む上でも有効。

○見てきたことに課題をもち，どんな方法があるのか，生活科から総合への橋渡しとしても「調べる方法」を考える授業は３年生の段階ですることはよい。

○探求していくという活動をしていく上で，本時の授業は大切なことを考えている。

△自分の生活経験による本時の展開は難しいので事前に調べる体験（理科・社会等）をつませておいてから総合で調べる時に「どんな方法」があって「どんなことにこまりそうか」すれば出しやすい。

△ワークシートに書いたことを共有化

・ファイリング

・発表させて黒板に貼る（板書）

△調べ方カードを用意して，困った時に次どの方法でするのか選択できるようにする。

## 第５学年　総合的な学習の時間学習指導案

平成２４年１２月１４日（金）第３・４校時　指導者　赤松　るり子・岩崎　真介
場所　　５Ａ教室・視聴覚室

### １　単元名　　「発見！探検！藤田の農業」「未来へ続く藤田の農業」（全４０時間）

### ２　単元の目標と育てたい力

⑴　単元の目標

米作りの体験や農業にかかわる方とのふれあいを通して，藤田の農業について関心をもち，自分なりの課題や疑問を見つけ追求し，考えを交流する中で，これからの藤田の農業について考えたことを自分の生活の中で生かしていくことができる。

⑵　育てたい力

本校で取り組んでいるESDの考え

①地域を教材化した学習　②問題解決型学習

を取り入れて，下記のように考えた。

**問題解決能力**

米作りを体験し，農業にかかわる情報に触れることで，自分なりの課題をもち，追求し，課題について調べた事実を関連づけて，自分なりの考えをもつことができる。

**実践する力**

グループ活動や話し合い活動を通して，得ることができた知識や藤田の農業への思いを，これからの自分の生活の中で生かしていくことができる。

**伝え合う力**

集まった情報から課題解決に合った適切な情報を選び，整理して，伝えたいことを自分の考えをもってまとめ，発信することができる。

伝え合う活動を通して，共通点や相違点を見つけ，話し合い，考えを深めたり，新たな課題を発見したりできるようにする。

### ３　単元設定の理由

⑴　単元について

本校の位置する藤田地区は，干拓地として広く平地が広がっており，昔からこの地形を生かして稲作を中心とした農業が広く行われている。また，稲作以外にもレタス，タマネギ，ナスなど，生産されている農作物の種類は豊富である。

しかし，農業人口の低下や高齢化の問題がある中で，５年生児童の家庭では，農業に従事している家庭は少なく，地域が水田や畑に囲まれているにもかかわらず，地域の農業への興味や関心をもちにくい現実がある。

１学期の単元「めざせ！米博士」では，藤田の農業で代表的な米について，歴史や品種，さらには環境にいたるまでの幅広い視点で調べ学習を進めていくことができた。また，地域の米農家で米作りの体験をしたり，学区の農業を学んでいる高校でアヒル・アイガモ農法について見学したりしたことで，藤田の農業について知ろうとする意欲が高まっている。そして，それらの活動から，地域とのつながりが生まれている。

そこで，本単元では，藤田の農業について，実際に農業体験をしたり，藤田地区の農業にかかわりの深い方の話を聞いたり，農家の方へのインタビューや見学，さらにそれを生かしての調べ学習など，問題解決に向けて考えを深めていく。そして，交流会などの情報発信活動から，お互いの知識や思いを共有し，新たな課題を発見し，解決手段を思考していく。そのような活動を通して，藤田の農業への興味，関心をもち，農家の方々の願いや思いを知ることで，わがまち藤田を愛し，地域を誇りに思い，未来へと続く藤田の発展を願う心情を育てたいと考えた。

⑵　児童の実態

本学年の児童は，これまでの総合的な学習の時間の中で，様々な人とのかかわりを通して，思いを知ったり，活動の仕方を学んだりしてきた。第５学年のテーマ「藤田に農業は必要か？」について取り組んでいくにあたり，実際に米作りを体験したり，米農家の方の思いや願い，苦労を知ることで，より一層，農業に対するイメージが鮮明になってきた。また，さらに調べ学習を展開していくことで，米作りについて豊富な知識をもつことができた。これらの活動を通して，児童は自分の課題を解決していく方法や手順を少しずつ理解してきている。しかし，解決したことを自分なりの方法でまとめ，表現していく力や，聴き手を意識して自分の意図を分かりやすく発表する力，解決した結果を発表・交流し，お互いのよさを認め合っていく力は十分育っているとはいえない。

そこで，今まで収集してきた情報を発表資料にまとめ，交流する学習を通して，発表する力・表現する力・意見を交流し合う力と共に，お互いを認め合おうとする態度を育成していきたい。

### ４　研究テーマとのかかわり

（研究テーマ）

自他を大切にし，ともに高め合っていこうとする子どもの育成

～互いの思いや考えを伝え，比べ合い，共感し合うコミュニケーション活動の充実～

本時では，次のような活動を大切にすることによって，研究テーマに迫ることができると考えた。

○課題について自分の考えをもつこと

単元の導入でイメージマップ作りをすることで，自分がもっているイメージを明確にし，そこから生まれる課題について見通しをもって調べ，調べた事実を関連づけて，自分の考えをもつことができるようにする。活動ごとにその時の自分の考えを記録しておき，次の活動へつなげていくことができるようにする。

○自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとすること

フィールドワークで体験したことや調べ学習で深めたことを効果的にまとめ，工夫して発表できるようにする。模造紙にまとめる前に，自分なりの学習のあしあととして「藤田の○○新聞」を作成し，グループで話し合う際に主体的に活動できるようにする。まとめ方としては，内容面，視覚的な効果などを考慮してレイアウトを考え，挿絵や色づけなどの工夫を施すようにする。模造紙にまとめる際は，グループの中でそれぞれの「藤田の○○新聞」の記事をよく読み合わせ，どの内容を取り上げるか，どんなレイアウトにするか，どこにどんな挿絵や写真を入れるなど，細かく計画を立ててまとめるようにする。発表の際は，単なる棒読みではなく，ニュース形式にしたり，ペープサートを使ったりして，相手に分かりやすく伝えるための工夫を加えるようにする。

○自分の考えを伝え，相手の考えをしっかり聞くこと

伝えたいことを相手にしっかりアピールできるように内容を精選し，グループでよく話し合うようにする。模造紙にまとめたことをそのまま読むのではなく，自分たちが特にアピールしたいことを取り上げ，聴き手の関心を引くような発表の仕方を工夫する。その際，自分たちの考えや意見を言語行動（言葉），非言語行動（身振り・手振りなど）を用いて聴き手にわかりやすく伝えるようにする。聴き手になった際は，話し手の意図していることをくみ取りながら聴くようにする。話し手と聴き手との間でソーシャルスキル的な双方向の意見のやりとりができるようにする。

○自分の考えと相手の考えを比較し，相違点，共通点に気づくこと

まとめたことを発表し，他のグループと交流することにより，自分たちの考えと友達の考えを比較し，意見を交換することでより考えが深められるようにする。藤田野菜の種類，植える時期，収穫する時期など，野菜によって育て方が違うこと，農業に携わる方の願いや仕事への情熱，努力，工夫していることなど，自分たちが見て，聴いて，調べてきたこととの相違点，共通点についても考えながら学習を進めていくようにする。学習の最終方向としては，学年テーマ「藤田に農業は必要か？」に迫るために，共通点としての農家の方の心情（やりがい・喜び・苦労・努力など）にも触れ，未来の藤田の発展に対する地域の人々の思いや願いを知り，自分たちにできることは何かを模索し，地域に愛着をもち，地域に関する課題を感じ，考える児童を育てていく。

## 5　単元の活動計画　（全４０時間）

| 学　習　過　程 | 学　習　活　動 |
|---|---|
| 第一次（１０時間） | 藤田学区で育てられている農作物を知ろう。 |
| 第１時 | ①学年テーマ「藤田に農業は必要か？」について話し合い，イメージマップを作成する。（１時間） |
| 第２時～第３時 | ②JA 営農センターの方の話を聞いて，藤田の農業についての概要，農作物の種類を知る。（２時間） |
| 第４時～第５時 | ③藤田レタスを扱う天満屋のバイヤーの話を聞き，藤田野菜の特徴を知り，自分なりの思いをもつ。（２時間） |
| 第６時～第８時 | ④藤田野菜についてさらに知りたいことを考え，話し合い，まとめていく。（３時間） |
| 第９時～第１０時 | ⑤フィールドワークに向けて，インタビューの内容を考えたり，練習したりする。興陽高校生とも課題を共有し，練習する。（２時間） |
| 第２次（２０時間） | フィールドワークに行き，農家の方から学ぼう。 |
| 第１時～第２時 | ①興味をもった農作物についてグループに分かれ，農家を訪問し，インタビューや体験活動をする。（２時間） |
| 第３時～第５時 | ②訪問した農家で学んだことについて，個別に新聞にまとめる。（３時間） |
| 第６時～第９時 | ③興味をもった農作物について調べ，情報を収集し，グループで共有する。（４時間） |
| | 5年生全体で発表会をして，交流しよう。 |
| 第１０時～第１３時 | ④フィールドワークで学んだこと，お世話になった農家の思い，グループで共有したそれぞれの農作物について，伝えたいことをグループごとに模造紙にまとめる。（４時間） |
| 第１４時～第１７時 | ⑤まとめたことをもとに発表原稿を作り，役割分担をして発表の練習をする。（４時間） |
| 第１８時～第１９時（本時） | ⑥グループごとに発表をし，考えを広げたり，考えを深めたりできるよう交流する。（２時間） |
| 第２０時 | ⑦発表会で交流できたことを紹介し合う。（１時間） |
| 第三次（１０時間） | 藤田の農業の未来へ向けて PR 作戦を考え，実践しよう。 |
| 第１時 | ①これまでの学習を生かして，藤田の農業のよさを PR する方法はないか話し合う。（１時間） |
| 第２時～第３時 | ②グループで PR 作戦を考え，作戦を進めていくためのプランを立てる。（２時間） |
| 第４時～第７時 | ③グループプランを紹介し合い，課題を見つけて解決し，プランを練り直し，実践に向けて準備する。（４時間） |
| 第８時～第９時 | ④PR 作戦を実践する。（２時間） |
| 第１０時 | ⑤活動をふり返り，今後の自分たちの実践につなげる。（１時間） |

## 6　本時案　（第二次第１８・１９時）

| 目　標 | ・藤田の農業について調べてきたことを元に，グループで協力して聴き手にわかりやすく伝えることができる。<br>・他のグループの発表を主体的に聴き，新たな気づき，感想をもつことができる。 |
|---|---|
| 学習活動 | 指導上の留意点 |
| 1　本時のめあてを確かめる。（５分） | ・これまでの活動をふり返り，本時は，藤田の農業について調べてきたことを発表し，交流する場であることを確認する。<br>・これまでの活動を想起しやすいように，活動時の写真や自分たちで育てたレタス等を提示する。 |
| 「藤田の○○発表会」をして，考えを交流しよう。 | |
| 2　発表会の約束について話し合う。（５分）<br>・よい発表の仕方<br>・聴き方<br>・意見の交流の仕方<br>・時間と進行について<br>前半・後半各３５分<br>発表・交流各１０分 | ・今までの学習の経験から，よい発表の条件について考えを話し合い，自分たちの発表に生かすことができるようにする。<br>〈発表の流れ〉<br>①はじめの言葉<br>②発表<br>③質問<br>④感想・意見<br>⑤終わりの言葉<br>〈発表の観点〉<br>①目線　(^o^)　(-_-)　(>_<)<br>②声の大きさ　(^o^)　(-_-)　(>_<)<br>③話し方　(^o^)　(-_-)　(>_<)<br>④進行の仕方　(^o^)　(-_-)　(>_<)<br>⑤工夫の仕方　(^o^)　(-_-)　(>_<) |
| 3　前半・後半に分かれて発表会をする。<br>（前半：７グループ）<br>（後半：７グループ）<br>（７０分） | ・各グループで役割を分担し，みんなで協力して発表ができるように各教室に「藤田の○○コーナー」のブースを作り，場を設定する。<br>・発表が滞っているグループには，いっしょに内容を確認したり，活動をふり返ったりして，グループで助け合って発表が進められるよう助言する。<br>・自分たちが調べた「藤田の○○」と比較しながら聴くことができるように，聴き手に感想カードを用意しておく。<br>・話し手の発表の仕方ついて即時に相互評価できるように，観点別プレートを用意しておく。<br>・主体的に聴き，質問や感想・意見等に反映できていたり，それに対しての考えを返したりと，双方向のやりとりができているグループを称揚する。<br>・進行状況を見て各グループの交代時間（１０分）を知らせる。<br>○十分満足できる状況<br>発表の仕方や発表内容について，自分たちのグループと比較・関連させながら話し合い，考えを交流し合っている。<br>○おおむね満足できる状況<br>発表の仕方や発表内容について話し合い，考えを交流し合っている。 |
| 4　全体で話し合う。（８分） | ・発表会で見つけた各グループの発表の仕方のよいところを話し合う。<br>・自分たちが調べた「藤田の○○」との相違点，共通点について考えを発表し合い，板書に位置づける。<br>（主な予想）<br>相違点・・・歴史，種類，育て方，病気・害虫，栄養分・料理など<br>共通点・・・農家の方の工夫・努力，農家の方の思い・願いなど |
| 5　本時のまとめをする。（２分） | ・発表会をしてみて思ったこと，感じたこと等の感想をワークシートにまとめることで，次時につなげる。 |

## 7　板書計画

め　「藤田の○○発表会」をして，考えを交流しよう。

写真　写真
写真　写真
写真　写真

〈発表の流れ〉
①はじめの言葉
②発表
③質問
④感想・意見
⑤終わりの言葉

〈発表の観点〉
①目線
②声の大きさ
③話し方
④進行の仕方
⑤工夫の仕方

発表会の感想
○ちがうところ

○同じところ

ま　農家の方の思いや願いは地域の発展につながっている。

## 8　反省と課題

○反省

・本単元では，米作りやフィールドワークで体験したことを生かしながら，米作りや農作物の生産に携わる人たちの苦労や収穫の喜びがどういうものかを考え，自分の生活の在り方を見直したり，未来の地域の発展について考えたりしていくことを学習テーマとした。地域の方々の協力を受け，実際に足を運んで農作業を体験することで，より一層地域との結びつきを深く感じることができた。また，社会科の稲作や食料生産についての学習と関連づけたり，農業に関する探究的な学習を具体的に進めたりすることで，児童が地域の特色である農業を身近に感じることができた。これらの体験から，実際の仕事の大変さや収穫の喜びも実感することができた。これをベースに，子ども達の多面的な考えを出させる中，「農業の仕事は大変だが，その中にも喜びがある」という働いている人の思いと，食習慣をはじめとする自分の生活とを結びつけ，自己の生き方や未来の地域の発展について考えを深めることができた。児童が各自の課題を探究するための活動をスパイラルにくり返していくことにより，農業の仕事内容やその手順を知るということに終わらず，「食」に従事する人の勤労観を捉え，そのことを自分の生き方につなげていくことができた。

・本時では，農業に関する体験と調べ学習を中心に児童が自分たちの言葉でまとめ，聴き手にわかりやすく説明できるように表現方法に工夫を凝らした。その結果，グループでの活発な話し合いが生まれ，一人一人が課題と向き合い，解決に向けて探究的な活動を繰り広げることができた。また，発表会では，単なる発表の場としてではなく，話し手から聴き手へ，聴き手から話し手へと言葉のキャッチボールができるよう，活動の場を設定した。これにより，コミュニケーション力の高まりが感じられた。

○課題

・農業への関心は，グループ内で個人差があり，グループ活動を行う上で積極的にかかわろうとする児童ばかりではなかった。身近な地域へ目を向け，地域の課題を自分たちの課題として捉えることができるよう，地域とのかかわりを今後も積極的にもとうとする姿勢が大切である。

・地域の発展のために今後，自分たちにできることは何かを具体的に探っていく中で，単なる理想論に終わることなく，身の回りの小さな事から継続して取り組んでいけるよう，意識の持続化を図っていきたい。

# 岡山市立第三藤田小学校

# 岡山市立第三藤田小学校

（1） 本校のユネスコスクールとしての活動（ESD）の特徴

本校では，藤田中学校区の小中学校で共通テーマの設定や各校ESDカレンダーを作成し，ESDの取り組みを進めてきた。さらに，それぞれの学校の取り組みを地域の方に発表する藤田ESD実践発表会も開催する。

本年度は，生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発の見直しと他教科との横の関連性を整理するためのESDカレンダーの作成を進めてきた。さらに，３年生と５年生は，農業を通して藤田の人やものに対する思いを高め，４年生と６年生は，福祉や国際理解を通して，人を理解し，よりそう気持ちを高めるという学年間の系統性（縦の関連性）を整理し，活動をしている。

（2）ユネスコスクールとしての活動（ESD）の実施状況

１年生 【もうすぐ２年生】（１５時間）

○ １年生で楽しかっことやできるようになったことを振り返り，これまでの生活や成長を支えてくれた人々や自然に感謝し成長カードにまとめた。そして，新１年生やお家の人にみんなのワクワクを伝えよう，自分たちもワクワクを広げようという「ワクワク大作戦」という活動の中で新１年生体験入学や入学式準備，ミニ発表会などを行った。

２年生 【野菜を育てよう】（１１時間）

○ 児童一人一人が，自分の育てたい野菜をきめて栽培をした。見るだけではなく育てた後に食べても楽しめる身近な植物で，育てやすく多くの収穫が予想される野菜を栽培した。その中で，地域や保護者の方から野菜の育て方を聞いたり，調理方法を教えていただいたりして，気付いた植物の成長の様子をまとめたり世話の工夫をしたりした。

３年生 【藤田のお宝をさがそう】（７５時間）

○ 前期「三藤のお宝をさがそう」：学区を探検し様々な物に触れ，いろんな名人に話を聞いたり，インタビューしたりした。

○ 中期「レンコンのひみつをさぐろう」：学区のレンコン農家を訪ね，藤田のレンコンのひみつを調べたり，まとめたりした。

○ 後期「大豆のひみつをさがそう」：大豆についていろいろ調べ，学区の大豆農家に話を聞いたり，婦人会の方々といろいろな大豆料理に挑戦したりする。

４年生 【人にやさしい町づくり大作戦】（７５時間）

○ 前期「ゴミって何」：明和製紙の「紙はゴミじゃない」講座への参加，興陽高校の菜の花プロジェクトへの参加，廃油石けんづくり教室やトヨタエコカー体験教室への参加を通して３Ｒを体験的に学んだ。ゴミ減らし作戦では，給食残量減らし，雑紙リサイクル等自分たちでできる活動を考え実践した。

○ 後期「福祉体験」：盲目の方に来ていただき，その思いや盲導犬の役割についてお話を聞いた。さらに，社会福祉協議会の方に協力していただき，車いす体験や体の不自由な方の動きを体験した。その後，障がいを持った方たちと共にくらす町についての話し合いをした。

５年生 【藤田に農業は必要か】（７５時間）

○「プロジェクト八十八～２０年後の藤田の米作りについて考えよう～」：三藤田での米作り体験やバケツ稲作りをすることにより，米作りの大変さや収穫の喜びを実感したり，米作りに携わっている人たちへの取材や交流を通して，米作りのための工夫や努力に気付いたりして，２０年後の藤田の米作りについての提案書を作成する。

（３）特徴的な活動（ESD）事例

６年生　【幸せって何？】（７０時間）

○目的・世界中の人々とのつながりを意識しながら，友だちや家族，地域と言った自分に身近なところに働きかけ，自分ができる活動をしようとすることができる。

○世界の国々の現状や諸問題を学習することにより，自分のことや自分の生活のことに気付き，その気付きを自分の生活に生かそうとすることができる。

○つねに自分の考えや思いをもち，互いの立場や意図をはっきりさせながら，話し合うことができる。

○単元構想（全７０時間）

①世界の諸問題について考える。（２０時間）

・「幸せ」について考える。　・世界の子どもたちの現実を知る。

・世界の諸問題について調べる。

②国際協力実践活動の計画を立てて，実践活動を行う。（３０時間）

・第１回目の支援活動をする。　・１回目の支援活動を振り返る。

・海外研修生の話を聞く。　・活動内容を話し合い，第２回目の支援活動を行う。

③活動をまとめ，「幸せ」について伝える。（２０時間）

・ハートオブゴールドの方から支援物資等の報告を聞く。

・実践活動をまとめ，発信する。

○成果と課題

▲自分たちとつながっていることを強く意識し，これからの生活に生かしていこうとする意識をさらに高めていきたい。

▲「～してあげる」という優越意識から「共に生きる」「共に支え合う」という意識にするための手立てを工夫する。

◎実際に話を聞きながら進めていくことで，相手の立場に立って，本当に必要な物は何かを自分なりに考えることができた。

◎海外研修生とのやりとりの中から，その国の問題や自分の思いとの違いに気づくことができた。

◎支援した後の報告を聞くことで，達成感を味わったり，つながっていると意識できたりすることができた。

（４）今年度の成果と課題

①学校としての成長

・ねらいや育みたい力を明確にし，ただ単に体験活動を行うのではないという意識が浸透してきた。

・ESD カレンダーを作成できた。

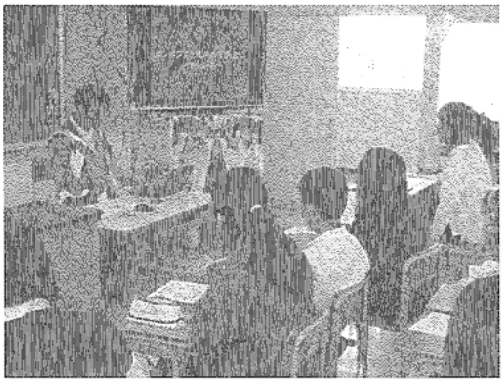
②子どもたちの成長

・学年という縦のつながり，中学校区の友だちや地域の方といった横のつながりが広がり，身近な自然や人・もの・ことのよさを感じることができるようになってきた。

③　課題

・子どもたちの価値観を変える手立てと評価についての研究が必要である。

６年生海外研修生との交流



# 第三藤田小学校　生活科・総合的な学習で育みたい力

| | 子どもの姿 | | | つけたい力 | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自分とのかかわり | 課題解決力 | ・課題を見つける<br>・情報を集める<br>・まとめる<br>・考えをもつ | ①<br>② | ○課題を見つけ，追究する力<br>○調べた事実を整理して自分の考えをもつ力 | ○自分の思いや願いを実現するために工夫して活動することができる。<br>○活動をして，気づいたり，感想をもったりすることができる。 | ○自分の課題について，大まかな見通しをもって追究することができる<br>○調べたことを整理して自分の考えをもつことができる。 | ○自分や学年全体の課題について見通しをもって追究することができる。<br>○調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。 |
| | 実践力 | ・実践する<br>・参加貢献する<br>・気付く<br>・生活に生かす | ⑥<br>⑦ | ○社会の一員として周りに働きかけながら活動しようとする力<br>○学習で培った考えや思いを生活に生かすことができる力 | ○地域の活動に自分から参加しようとすることができる。<br>○気づいたことを生活に生かしていこうとすることができる。 | ○地域へ目を向けて自分にできることから行動しようとすることができる。<br>○学習を通して培った自分の考えや思いを自分の生活に生かしていこうとすることができる。 | ○社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようとすることができる。<br>○学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり，「これからどうあればよいか」など，自分のかかわり方を考えたりして生活に生かすことができる。 |
| 他者とのかかわり | かかわる力 | ・かかわる<br>・協力する | ③<br>⑤ | ○相手のことを考えてかかわろうとする態度<br>○人々の工夫や努力に気づき，社会への関心を広げる。 | ○自分のまわりの人に進んでかかわることができる。 | ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり，地域で行われている工夫や努力に気づくことができる。<br>○相手の立場や気持ちを考えながらかかわることができる。 | ○自分のまわりの人や自然に進んでかかわり，関心の対象を広げ，人々の工夫や努力に気づき，社会への関心を広げることができる。<br>○相手の立場や気持ちを理解して，かかわることができる。 |
| | コミュニケーション力 | ・聞く，話す<br>・話し合う<br>・発表する<br>・発信する | ④ | ○自分の考えや思いを相手の立場を理解しながらわかりやすく表現し，伝える力<br>○相手の立場を理解しながら聞き，話し合う力 | ○自分の言葉で表現し，伝えることができる。<br>○交互に話し手になったり聞き手になったりして，話し合うことができる。 | ○相手に分かりやすく整理して表現し，調べたことを報告したり，それらを聞いて意見や感想を言うことができる。<br>○互いの考えの共通点や相違点を考えながら，話し合うことができる。 | ○目的や意図に応じ，資料を提示しながら説明や報告をしたり，それらを聞いて質問や助言をすることができる。<br>○互いの立場や意図をはっきりさせながら，話し合うことができる。 |

【資料】ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度・育成

| | |
|---|---|
| ①批判的に思考・判断する力 | 合理的，客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き，物事を思慮深く，建設的，協調的，代替的に思考・判断する力 |
| ②未来像を予測して計画を立てる力 | 過去や現在に基づき，あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し，それを他者と共有しながら，ものごとを計画する力 |
| ③多面的，総合的に考える力 | 人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し，それらを多面的，総合的に考える力 |
| ④コミュニケーションを行う力 | 自分の気持ちや考えを伝えるとともに，他社の気持ちや考えを尊重し，積極的に，コミュニケーションを行う力 |
| ⑤他者と協力する態度 | 他者の立場に立ち，他者の考えや行動に共感するとともに，他者との協力・共同してものごとを進めようとする態度 |
| ⑥つながりを尊重する態度 | 人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち，それらを尊重し大切にしようとする態度 |
| ⑦責任を重んじる態度 | 集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち，自分の役割を理解するとともに，ものごとに主体的に参加しようとする態度 |

第1学年　岡山市立第三藤田小学校　ESDカレンダー

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | ふたりでいっしょに | こんないしをみつけたよ | | | おはなし　きいて | みいつけた | おみせやさんごっこをしよう | | | これはなんでしょう　どうぶつの赤ちゃん | いいこといっぱい 1年生 |
| 算数 | | ① | ② | | | ③ | ④ | ⑤ | | | ⑥　H | ⑦ |
| 生活科 | がっこうだいすき | たくさんさいてね　きれいにさいてね | | | | たのしさいっぱい　あきいっぱい<br>あきささがそう | あきのおもちゃだいしゅうご | あきのおもちゃでいっしょにあそぼう（いもまつり） | | みんないっしょに | もうすぐ2年生 | |
| 関係機関 | A | 老人会 学前植え | B | | | | C | D　老人会 保育園　⑨ | | 地域及び各種団体 | E | 保育園 幼稚園 |
| 道徳 | たのしいがっこう | ⑧ | うちのさんぽ | | | | ぼくにできること | きもちよくあいさつ | | | | 2年生になっても |
| 図工 | | しぜんと　なかよし | | | | | | こころをこめてプレゼント | | | | |
| 音楽 | | | | | | | | | | | | |
| 学校行事 | 縦割り班　遠足 | | | | | | 生活科見学 | 音楽発表会 | | 収穫祭 | 新1年体験入学 | 6年生を送る会 |

技能表

| カレンダーの番号 | 関連内容 |
|---|---|
| ① | 2人で話す、聞く。 |
| ② | 自然にかかわり、気づいたことを書き、発表する。 |
| ③ | グループで話す、聞く。 |
| ④ | 発表のし方、聞き方。 |
| ⑤ | たずねたり、応答したりする。 |
| ⑥ | わからないことを質問する。 |
| ⑦ | 書くテーマに必要な事柄を集め経験したことを書き、伝える。 |
| ⑧ | 人や自然にかかわる。 |
| ⑨ | 人や自然にかかわる。 |
| | |
| | |

内容・心情面

| カレンダーの文字 | 関連内容 |
|---|---|
| A | 愛校心 |
| B | 動植物を大切にする。 |
| C | 自分にできることをがんばる気持ち。 |
| D | 礼儀正しく、きもちのよいあいさつをしてお迎えしよう。 |
| E | 友だちや自然にかかわり、自分の思いを表現する。 |
| F | 自分の思いや願いを工夫して活動する |
| G | 今までの経験を生かし工夫して活動をするとともに生活にも生かしていく |
| H | 成長に気づく |
| | |
| | |
| | |

第3学年　岡山市立第三藤田小学校　ESDカレンダー

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | よい聞き手になろう | 気になる記号<br>報告書の書き方 | | | | | すがたをかえる大豆 | | しりょうからわかったことを発表しよう | 本で調べてほうこくしよう<br>百科事典や図鑑の使い方 | |
| 社会 | たんけんしゅっぱつ<br>学区のようす | | | | | 人々のくらしをささえるしごと | | | | | | |
| 算数 | | | | | | | | | | 表とグラフ | | |
| 理科 | | たねをまこう<br>(ホウセンカ) | どれぐらい育ったかな | | | 育ち方を調べよう | | | | | | |
| 総合 | お家をさがそう<br>いちご農家をたずねよう<br>玉ねぎ農家をたずねよう　大豆を育てよう | | | | | 藤田のレンコンのひみつをさぐろう | | | | 大豆パワーをさぐろう | | |
| 関係機関 | | いちご農家　玉ねぎ農家 | | | | | れんこん農家 | JA女性部 | | | | |
| 道徳 | | | | 祭りだいこ | | おばあさんときれいな道 | | | | | | |
| 音楽 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 学校行事 | | | | | | | 社会科見学 | | | | | |

技能面

| カレンダーの番号 | 関連内容 |
|---|---|
| ① | 話の聞き方 |
| ② | 報告書の書き方 |
| ③ | 表の見方、書き方 |
| ④ | 資料からわかったことの発表の仕方 |
| ⑤ | 百科事典や図鑑の使い方 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

内容・心情面

| カレンダーの記号 | 関連内容 |
|---|---|
| A | 学区について知る。 |
| B | 植物の育ちを知る。 |
| C | 植物の育ちを知る。 |
| D | 郷土に親しむ。 |
| E | 人々のくらしを支える仕事を知る。 |
| F | くらしを支える仕事をしている人に感謝・尊敬の気持ちをもつ。 |
| G | 大豆について知る。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

第4学年　岡山市立第三藤田小学校　ESDカレンダー

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | よりよい学級会をしよう ① | | 調べたことを報告する文章を書こう ② | 新聞を作ろう ③ | | 手と心で読む B | | アップとルーズで伝える ④ | 聞き取りメモの工夫 ⑤ | | | |
| 社会 | ごみのしまつと活用 A | | | | | | | | | | | |
| 算数 | | | 折れ線グラフ ⑥ | | | | | | | | | |
| 理科 | | | | | | | | | | | | |
| 総合 | 『人にやさしい町づくり大作戦』　『ごみって何？』<br>ごみについて考えよう | | テーマを決めて調べて実践しよう | ごみを減らす呼びかけをしよう | | | 『人にやさしい町づくり大作戦』　『人にやさしい町って何？』<br>高齢者や目の不自由な人の大変さを知る，体験する，考える。 | | テーマを決めて調べて実践しよう。 | | 実践したことをまとめよう | |
| 関係機関 | ゴミスクール | | 明和製紙　興陽高校 | 藤田中学校 | | 興陽高校 | 岡山市社会福祉協議会 | 岡山市社会福祉協議会　西ふれあいセンター | | | | |
| 道徳 | C けんじのわすれ物 | | | D 富士山を救え | | | E 不思議なぼくの気持ち | F オトちゃんルール | | G 前へ進もう | | H「バリアフリー」いっぱいの町 |
| 音楽 | | | | | | | | | | | | |
| 学校行事 | | PTA廃品回収 | | | | | 社会科見学 | PTA廃品回収 | | | | |

技能面

| カレンダーの番号 | 関連内容 |
|---|---|
| ① | 話し合いの仕方 |
| ② | アンケートの取り方　報告書のまとめかた |
| ③ | 新聞の作り方 |
| ④ | 資料の効果的な使い方 |
| ⑤ | メモの取り方 |
| ⑥ | 折れ線グラフのかき方 |
| ⑦ | |
| ⑧ | |
| ⑨ | |
| | |

内容・心情面

| カレンダーの記号 | 関連内容 |
|---|---|
| A | ごみのしまつと活用 |
| B | 目の不自由な人 |
| C | ごみのしまつ |
| D | ごみ問題 |
| E | 高齢者や体の不自由な人 |
| F | 体の不自由な人 |
| G | 体の不自由な人 |
| H | バリアフリー |
| | |
| | |

第5学年　岡山市立第三藤田小学校　ESDカレンダー

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | きいて，きいて，きいてみよう ① | 次への一歩 活動報告書 ② | | | | インターネットを使って調べる ③ | 天気を予想するグラフや表を引用して書こう | | | | |
| 社会 | | 米作りのさかんな地域 | さまざまな土地のくらし | | | 水産業のさかんな地域 | これからの食料生産 | ④ | | | | |
| 算数 | | B | C | | | E | F | | 平均を使って | 百分率 割合のグラフ | | |
| 理科 | | 植物の発芽と成長 A | | | | 花から実へ D | | | | ⑤ | | |
| 総合 | プロジェクト八十八 ～藤田に農業は必要か？～ | | | | | | | | | | | |
| | | 藤田の農業について話し合おう | | 個人でテーマを決めて調べ，提案書を作ろう | | | | | | 意見を交流し，自分たちにできることを考えよう | | |
| 関係機関 | | 桂もみ農家の方 農業後継者クラブ | H | 興陽高校 | | | 興陽高校 JA 桂もみ農家 大規模農家 | | 農業後継者クラブ | K 保護者 地域の方 | | 農業後継者クラブ |
| 道徳 | | G | 夏休みの白川郷 | | | I | | ⑥ | | 日本のたから | | |
| 家庭科 | | お米のよさを知ろう（食育） | | | | | 五大栄養素の働きと食品のグループ | ごはんとみそ汁を作ろう | | | | |
| 学校行事 | | 芽だし | もみまき | 田植え | | | | 稲刈り | 籾干し | | 収穫祭 | |

技能面

| カレンダーの番号 | 関連内容 |
|---|---|
| ① | インタビューの仕方 |
| ② | 報告書の書き方 |
| ③ | インターネットで調べるときの注意 |
| ④ | グラフや表の引用の仕方 |
| ⑤ | 割合の求め方。それを使ったグラフの書き方。 |
| ⑥ | ご飯の炊き方 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

内容・心情面

| カレンダーの記号 | 関連内容 |
|---|---|
| A | 植物の発芽と生長に必要なもの |
| B | 現在の米作りの問題点や，それに携わる人たちの努力，工夫 |
| C | それぞれの土地にあった農業やくらし方の工夫 |
| D | 実ができるしくみ |
| E | 水産業における問題点や，それに携わる人たちの努力，工夫を米作りと比べる |
| F | 食料生産をよりよくするためのさまざまな取り組みや，今後の問題点 |
| G | お米のもつよさや日本食のよさ |
| H | 先人の努力を知り，郷土を愛する気もち |
| I | お米の栄養について |
| J | 先人の努力を知り，郷土を愛する気もち |
| | |

第6学年　岡山市立第三藤田小学校　ESDカレンダー

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | | 学級討論会をしよう | | ようこそ，わたしたちのまちへ | | 平和について考える | | | | | | |
| 社会 | | | | | | | | | アジア・太平洋に広がる戦争 | | 世界の中の日本とわたしたち | |
| 算数 | | ① | | ② | | ④ | | | B | 資料の調べ方 | A | |
| 理科 | | | | | | | | | | ③ | | わたしたちにできることを考えよう |
| 総合 | 『幸せって何？』 | | | | | | | | | | | G |
| | 世界の諸問題について考えよう。 | | | | | 国際協力実践活動の計画を立てて，実践活動をしよう。 | | | | | 活動をまとめて『幸せ』について考え，伝えよう。 | |
| 関係機関 | B | C | D | E ハートオブゴールドの方の話 | | F | HGカンボジア留学生交流 | G | HG 藤田中 公民館 第一藤田小 第二藤田小 | C | H | HG |
| 道徳 | 世界がもし100人の村だったら | 難民に思いをよせて | 今君たちに伝えたいこと | 絶望の中で見つけた光 | | この手に命を受けて | | 太平洋の架け橋に | 助け合って生きる | | 外国から見た日本 | I |
| 家庭科 | | | | | | | | | | | | 考えようこれからの生活 |
| 学級活動 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 学校行事 | | | | | | | | | | | | |

技能面

| カレンダーの番号 | 関連内容 |
|---|---|
| ① | 相手の意図を聞き取り，自分の主張を伝える。 |
| ② | インターネット検索の仕方 |
| ③ | 統計の読み方や書き方 |
| ④ | 意見文の書き方，スピーチの仕方 |
| ⑤ | プレゼンテーションの作成の仕方 |
| ⑥ | |
| ⑦ | |
| ⑧ | |
| ⑨ | |
| | |
| | |

内容・心情面

| カレンダーの記号 | 関連内容 |
|---|---|
| A | 世界の人々の暮らしの様子や願いについて知る |
| B | 世界の国の現状について知る |
| C | 諸外国の問題に目を向けて国際社会に貢献していこうとする心情を養う |
| D | アジアの貧しさの中で生活をしている子どもたち |
| E | 生命がかけがえのないものであること多知り，自他の生命を尊重する。 |
| F | 命のかけがえのなさを知り，自他の命を尊重しようとする心情を育てる |
| G | 自分たちの生活をふり返り，よりよくするための工夫を考える。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

## 第５学年　総合的な学習の時間　指導案

平成２４年１１月　２９日（木）５校時　　指導者　板倉　真由美

１　単元名　　プロジェクト八十八　～２０年後の藤田の米作りについて考えよう～

２　単元目標

○　藤田の米作りのいいところや問題点から自分なりの課題をもち，提案書を作成することを通して２０年後の藤田の農業について考えることができる。（課題解決力）

○　米作りに携わっている人たちへの取材や交流を通して，米作りのための工夫や努力に気づき，地域に愛着をもつことができる。（かかわる力）

○　作成した提案書をもとに説明や提案をしたり，友だちの考えを聞いて質問や助言をしたりすることができる。（コミュニケーション力）

３　児童の実態

藤田は干拓地であり農業がさかんな地域である。両親や祖父母が米作りをしていたり，１年生の時から学校田で田植えと稲刈りの体験をしてきたりしているため，児童にとって米作りは身近なものである。しかし実際の米作りの作業やお米の品種などについてはほとんど知らない。

学習の始めに「藤田に米作りは必要か？」と投げかけてみた。「必要」と答えた児童が２６名中２４名と大多数であったが，「田んぼではなくお店があった方がいい。」「お米は他の県から買えばいい。」と考える児童もいた。この結果から，地域の農家の方３名に来ていただき，直接話を聞くことにした。農業をしてうれしいことや苦労していることについて話を聞くうち，「生命をつなぐ食」というものの大切さに気づく児童が多く見られた。また，実際に自分たちの手で学校田に植えるための苗を育てる作業をしていく中で，全員が「米作りは必要だ」という気もちになった。

そこで，２学期には２０年後の藤田の米作りがどういう姿になっているとよいと思うか，米作りのよい点と問題点を手がかりに自分なりの考えをもち，一人ひとりが提案書を作成していく。自分たちの育てたバケツ稲で調べたことを根拠にしたり，フィールドワークでインタビューしたことを活用することで，実体験や見て聞いて調べたことをもとに提案書を作成させたい。

４　単元について

藤田中学校区における５年生の総合的な学習の共通テーマは「藤田に農業は必要か」である。児童は３年生の総合的な学習の時間で，地域の農業について学習している。レンコンの栽培法やおいしい食べ方などを教わることで，自分たちの地域には素晴らしい作物があり，それをつくる名人がいることを学んでいる。また，本校では，毎年５年生が中心となって，学校田でもち米を育てる活動をしている。５年生は，社会科で日本の農業や食料生産についても学ぶので，自分たちの住んでいる藤田学区の米作りを学習の場にすることによって，課題の設定・情報の収集・まとめ発信という探究的な学習に意欲をもって取り組むことができると考えた。また，当たり前のように見慣れたこの水田は，栽培する人のいろいろな思いが込められ，地域の人たちの努力に支えられている素晴らしい財産であることに気づくことで，さらに郷土を大切に思う気もちが深まることを期待している。

「ふれる」段階では，「藤田に米作りは必要か」というテーマで話し合った。実際にもみ蒔きを体験し，自分の手で苗を育てたり，社会科で農業について学んだりすることで，米作りに興味をもつ児童が増えると考えた。さらに，実際に米作りをされている農家の方に話を聞く機会を設けた。農業に対する思いや食を担う農業の大切さを知ることで，「米作りは必要だ」と考える児童が増えると考えた。

「つかむ」の段階では，児童一人ひとりが「２０年後の藤田の米作りがどうなっているとよいか」という自分なりの考えをもった。農家の方から聞いた農業のよい点と問題点の両面から考えることで，具体的な課題をもちやすくなると考えた。また，いくつかの種類の種籾を入手し，実際に自分たちの手でバケツ稲を育てて観察や比較実験をすることで，課題解決の手がかりとしたい。

「追求する」の段階では，フィールドワークで米作りに携わっている人たちにインタビューをして教わったことや，バケツ稲を使って調べたことをもとに，自分たちの思い描く２０年後の藤田の米作りについての提案書を作成した。まずは一人ひとりで「藤田の米作りがどうなるとよいか」という自分の課題について調べ，提案書を作成する。

「生かす」の段階では，グループで提案書を見直す。まず，一人ひとりが作成した提案書について友だちと考えを交流し，互いの提案についてのメリット・デメリットを洗い出す。次に似た考えをもつ児童のグループで，そのデメリットを解決する方法を考える。その際に地域の農業後継者クラブの方々と共に考える機会をもつようにする。例えば安全なお米作りするための「手間がかかる」というデメリットを解決しようとすると，「機械化するとお金がかかる」という新たなデメリットが生まれ，解決することは難しい。その中で地域の農家の方々がどんな努力や工夫をしたり，何を大切にして農業を行ったりしているのかに気づかせたい。そして，そんな農家の方々の努力や工夫を知ることで，自分の故郷である「藤田」を誇りに想う気もちを育てたい。また，今の自分たちにできることを考え実践することで，自分たちの生活をふりかえるきっかけとしたい。

５　研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心をもち，主体的にかかわろうとする子どもの育成」にせまるために，次のようなことを工夫していく。

（１）自分とのかかわり

「調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる」ための工夫

・「２０年後の米作りはどうなっているとよいか」について話し合い，「こうなって欲しい」という自分なりの考えを初めにしっかりともたせることで，何について調べればよいのか見通しをもって調べ学習に入れるようにする。
・実際の米作りの実践を調べ学習と平行して行い，調べたことをその実践に取り入れていくことで，そのよさや大変さを実感できるようにする。
・バケツ稲を育て，実際に観察や実験をすることで考えの根拠となるようにする。
・カードに，活動の内容や自分の考えを足跡として残していくことで，考えを整理できるようにする。
・実際に地域にフィールドワークに出かけ，米作りに携わっている方たちに直接自分の課題ついての質問をする機会をもつことで，地域の方の思いにもふれることができるようにする。
・違う考えをもった友だちと考えを交流する機会をもち，「よりよい米作り」には様々な考えがあり，それぞれは矛盾することに気づくことで，更に自分の考えを見直し，米作りについて深く考えることができるようにする。

（2）他者とのかかわり
「目的や意図に応じ，資料を提示しながら説明や報告をしたり，それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる」ための工夫

・表やグラフ，写真など，様々な表現方法があることを，国語「天気を予想する」や社会「米作りのさかんな地域」で学習し，実際に使ってみる。
・提案書を作成するのは初めてなので，書き方のモデルを提示する。
・ふだん発言しにくい児童が考えを書くことができたり，全員の考えを共有したりしやすいように，付箋を利用する。
・聞き手にわかりやすい表現方法をする必要感をもたせるために，違う考えをもった児童で構成したグループで，互いの提案書について話し合う機会を設定する。
・始めは，異なる提案をする児童を意図的に組み合わせてつくり，提案のメリット・デメリットの話し合いをする。その後同じ考えをもつグループでデメリットを解決できるように提案書を見直す作業をし，さらに農業後継者の方にもアドバイスをもらうことで，多様な考えを交流したり共有したりすることができるようにする。
・相手意識をもち，わかりやすい提案書を作成することができるように，クラス内だけでなく地域の方や保護者，一藤小，二藤小の友だちにも見てもらう機会を設ける。

6　本時の学習について
本時では，これまで調べてきたことを根拠に，自分の考えた「２０年後の藤田の米作り」についての提案を４～５人のグループで発表しあう活動をする。
グループは，異なる提案をする児童を意図的に組み合わせてつくり，客観的に友だちの提案内容について意見が言えるようにする。それぞれの提案の「メリット」と「デメリット」を洗い出すことで，さらによい提案にするための意欲につなげたい。また今後，似た考えをもつ児童でグループを組み，１つの提案書を作り上げていくので，「デメリット」を解決する手段を考えることで，さらに深く考えた提案書づくりの手がかりとしたい。

8　本時案

| 目標 | 友だちと自分の提案について意見を交流し，互いの提案の「メリット」と「デメリット」を話し合うことで，新たな課題をもつことができる。 | |
|---|---|---|
| 学習活動 | 教師の支援 | 評価 |
| 1　本時のめあてを確認する。 | ○本時はグループで友だちの発表を聞きあい，提案の「メリット」と「デメリット」を話し合うことを確認する。 | |
| グループで，提案の「メリット」「デメリット」を話し合おう。 | | |
| 2　話し合いの仕方について知る。 | ○教師が話し合いのモデルを示すことで，話し合いの進め方や，何について話し合うのかの見通しがもてるようにする。 | |
| 3　グループで話し合う。 | ○意図的に異なる考えの児童を組み合わせることで，客観的に「メリット」「デメリット」が見つけられるようにする。<br>機械化をする→＜メリット＞<br>作業が楽　速くできる<br>人手がかからない<br>＜デメリット＞<br>値段が高い　倉庫がいる<br>燃料代がかかる　等<br>○提案書を発表する際，「メリット」「デメリット」が見つけやすくなるよう，根拠となる資料を示しながら発表させるようにする。<br>○司会の児童を決め，スムーズに司会ができるように「話し合いの進め方マニュアル」を持たせる。<br>○自分の提案について受動的にならないように，自分でも自身の提案の「メリット」「デメリット」を考えて言うようにする。<br>○付箋紙を用意し，見つけた「メリット」「デメリット」を貼りながら意見を言うことで，考えを整理しやすくする。 | ○友だちや自分の提案の「メリット」「デメリット」について意見を言うことができた。（観察） |
| 4　話し合ったことをまとめる。 | ○ワークシートに自分の提案の「メリット」「デメリット」をまとめることで，これから解決する新しい課題に気づけるようにする。<br>解決する新しい課題<br>→購入費用を安くする方法<br>燃料費を安くする方法　等 | ○自分の提案の「デメリット」から，新しい課題をもつことができた。<br>（ワーク・観察） |
| 5　本時のまとめをする。 | ○ワークシートに活動のふり返りを書かせ，本時のまとめをする。 | |

7　単元構想図　　5年総合的な学習の時間　単元構想（全７０時間）　　藤田中校区５年生共通テーマ『藤田に農業は必要か？』

＜育みたい力＞

○調べた事実を関連づけて自分の考えをもつことができる。（課題解決力）ＥＳＤ①

○自分や学年全体の課題について見通しをもって追究することができる。（課題解決力）ＥＳＤ②

○自分の周りの人や自然に進んでかかわり，関心の対象を広げ，人々の工夫や努力に気づき，社会への関心を広げることができる。（かかわる力）ＥＳＤ③

○目的や意図に応じ，資料を提示しながら，説明や報告をしたり，それらを聞いて質問や助言をしたりすることができる。（コミュニケーション力）ＥＳＤ④

| 段階 | 学習過程 | 児童の学習活動と意識の流れ | | | 他教科との関連 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ふれる（⑩）<br>つかむ（⑤）<br>追求する（㉔） | 藤田の農業について話し合おう。<br>個人でテーマを決めて調べ、提案書を作ろう。 | ○「藤田に米作りは必要か？」について話し合う。<br>必要！<br>おじいちゃんやおばあちゃんが田んぼを守ってきたから<br>そのために干拓した土地だから　お年寄りの仕事がなくなるから<br>必要ない！<br>田んぼよりお店が欲しい。他から買えばいい。<br>○農業のよい点や問題点について話を聞こう。<br>○２０年後，今の米作りがどうなっているといいか考える。<br>おいしいお米ができるといい。　作業が楽になるといい。<br>よく売れるようになるといい。　安全なお米ができるといい。<br>もっと米作りをする人が増えるといい。<br>○個人でテーマを決める。<br>○テーマに沿って調べる。<br>バケツ稲で実験<br>・１本の苗からとれる量。<br>・品種によってどんな違いがあるか。<br>・どんな病気になるか<br>・どんな虫がくるか。<br>アヒル農法の見学（興陽高校）<br>・アヒル農法のよさ。<br>・興陽高校の取り組み。<br>他に無農薬にする方法はないのかな？<br>リサイクルした燃料を使っているそうよ。<br>○バケツ稲の収穫<br>・もみすり<br>フィールドワーク<br>興陽高校　種籾農家　ＪＡ　大規模農家<br>インターネット・その他調査<br>様々な農法について　お米の品種について　流通・販売について　農業機械について<br>・様々な品種の食べ比べ<br>・栄養士の先生の話<br>○自分の考えをまとめ，提案書をつくる。<br>○友だちと考えを交流する。（本時）<br>機械を使うと作業が楽になるんだよ。でも，お金がかかるよ。どうするの？ | ＜三藤田での米作り＞<br>（含　学校行事）　（⑩）<br>この土は特別なのかな？昔の人は大変だったんだな。<br>食べるお米ともみは違うの？<br>米作りをしている人たちは２０年後の藤田の米作りがどうなっていて欲しんだろう？<br>○もみまきをする。<br>・もみまきの仕方について地域の方に教わる。<br>・手作業でもみをまく。<br>お米の種類によって，大きさや形が違う。色もちがうよ。<br>種類によって，育ち方や採れる量も違うのかな？<br>調べてみたいな。<br>○たねもみの観察をする。<br>・違う種類のたねもみを観察する。<br>○苗を育てる。<br>手作業で植えると大変だな。<br>２，３本の苗が，本当に増えるのかな？<br>この後どんな世話をするのかな？<br>○田植えをする。（全校行事）<br>・全校に植え方を説明する。<br>○鳥よけの仕掛けをする。<br>・教わったことを生かして実践する。<br>○稲刈りをする（全校行事）<br>・刈り方を説明する。<br>○もみを乾燥させる。<br>・天日干しにする。 | 国語<br>「きいて，きいて，きいてみよう」<br>（インタビューの仕方）<br>理科<br>「種子の中には何があるか」<br>「植物が成長するには何が必要か」<br>国語<br>「次への一歩活動報告書」<br>社会<br>「米作りのさかんな地域」<br>社会<br>「これからの食料生産」<br>家庭科<br>「ごはんとみそしる」<br>国語<br>「インターネットを使って調べる」<br>「天気を予想する」<br>「グラフや表を引用して書こう」 | 協力依頼<br>地域の方<br>岡山大学<br>農業<br>後継者<br>興陽高校<br>岡山大学<br>興陽高校<br>地域の方<br>岡山大学 |
| 生かす（⑮） | 意見を交流し自分たちにできることを考えよう。 | ○グループで提案書をつくる。<br>・似た考えの友だちとグループになり，調べたことを合わせて１つの提案書にまとめる。<br>・農業後継者クラブの方と意見交換をする。<br>藤田では，いいお米を作ったり売ったりするために，いろいろな努力をしているんだな。<br>こんなに頑張って米作りをしている藤田は素晴らしい。<br>やはり，米作りは必要だな。<br>自分たちにも何かできることはないかな？<br>○提案書を発信する。<br>・地域の方，一藤小，二藤小<br>○自分たちにできる事を計画し，実践する。 | ○収穫祭（学校行事）<br>・収穫した餅米で，地域の人とお餅をついて食べる。<br>・地域の人に提案書を発表する。 | | 農業<br>後継者 |

## 9　成果と課題

○社会科で米作りについて学習したり，実際に農家の方からお話を聞いたりしたことで，米作りの抱える問題や，農家の方の思いを知ることができ，課題をもたせるのに効果的だった。

○一人ひとりが自分の課題をもち，全員が提案書を作成したことで，見通しをもって課題を追究したり，調べたことを関連づけて自分の考えをもったりすることができた。

○バケツ稲を育てて実験したり，学校田での米作り体験をしたりするという体験学習を大切にしたので，得た情報を自分の中で消化し，実感をともなった説得力のある提案書を書くことができた。

○様々な立場から農業に関わっている方々に直接お話を聞くことで，米作りはたくさんの人の力で成り立っていることに気づくことができた。

○お互いの提案についてのデメリットを話し合い，提案を見直していく活動を通して，すべてがうまくいく方法はなく，農家の方が何を大切にして農業をされているのかに気づくきっかけをつくることができた。

○作成した提案書について，友だちや農業後継者クラブの方と意見を交わすことで，農家の方の思いを知り，「食」の大切さや藤田という地域のすばらしさに気づくことができた。

●農家の方にお話を聞いた際，農業の抱える問題として後継者問題，ＴＰＰ，経済的問題などがあげられた。小学校５年生の子どもたちにどこまで考えさせればよいのかが課題である。子どもたちが農業に明るい展望がもてるようにしていくためにも，教師側がきちんと見通しをもつようにしていきたい。

●藤田の農業に関わる人たちの思いにふれたり，自分の住む藤田の素晴らしさには気づくことができるが，それを自分の生活とつなげて考えたり生かしたりすることはまだまだである。引き続きその手だてについて研究していきたい。

●児童が互いの考えを交流するための話し合い活動を取り入れたが，話し合いのしかたについての指導が不十分であったため，考えを十分に交流させることのできない場面もあった。来年度は各教科における表現力の指導と関連させて話し合いの仕方についても研究を深めていきたい。

第６学年　総合的な学習の時間　　指導案

平成２４年１０月１８日　（木）５校時　　指導者　菅井　憲人

１　単元名　　「幸せって何？」（国際理解）

２　単元目標

○　世界中の人々とのつながりを意識しながら，友だちや家族，地域といった自分に身近なところに働きかけ，自分ができる活動をしようとすることができる。

○　世界の国々の現状や諸問題を学習することにより，自分のことや自分の生活のことに気付き，その気付きを自分の生活に生かそうとすることがきる。

○　つねに自分の考えや思いをもち，互いの立場や意図をはっきりさせながら，話し合うことができる。

３　児童の実態

学習の始めに児童に自分のことについてアンケートを行った。今自分が幸せかどうかという問い対し，幸せと答えた子どもは１４人，幸せでないと答えた児童が３人であった。どんな生活が幸せなのか問うと，「震災が来ない生活」「家族や友だちと仲良く楽しい生活」「安全な生活」などが挙げられた。一方幸せでないと答えた児童は「お金がないから」「欲しいものが手に入らないから」という答えだった。そのアンケート結果から「自分たちが幸せ・幸せではないと思っていることと，他の世界の人も同じなんだろうか」という課題をもたせ，１学期には「もし世界が１００人の村だったら」のビデオを視聴して，世界で起こっている諸問題について一人ひとりが課題をもって調べ学習を行った。またハートオブゴールドの方から話を聞き，カンボジアの状況や世界の現状について教えていただくことで，自分たちは当たり前の生活だと思っていたことがそうではないことに気付き，自分たちも何か物資支援活動がしたいという気もちになった。

そこで，2 学期になって物資支援活動を行った。さらに，「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動を考えて実践しよう」という課題をもち，次はどんな活動をすればよいのかについて考えていく。実際に留学生の方にカンボジアの生活や子どもの様子などを教えていただき，どんな活動が喜ばれるのかについて考えさせたい。そして留学生の方のアドバイスをもらいながら，その活動を見直していく中で，自分たちの生活と比べたり，相手の想いに寄り添ったりできることを期待している。

４　単元について

藤田中学校区における６年生の総合的な学習の時間の共通テーマは「幸せって何？」である。

児童は４年生の総合的な学習の時間に，障害のある方が生活の中で困っていることについて調べ「自分たちにできること」について考えてきている。

そこで本単元では世界の諸問題に目を向け，ＮＰＯ団体や留学生から実際に話を聞きながら，相手に喜んでもらえる国際協力実践活動を考えて実践する。この活動を通して，児童は様々な国の人の想いや生活の様子について深く知り，相手の立場に立って考えたり関わったりすることの大切さに気付くことができると考えた。さらに世界の人々と自分を比べることで，自分の生活をふり返るきっかけとしたい。

「ふれる」段階では，「自分たちが幸せ・幸せではないと思っていることと，他の世界の人も同じなんだろうか」という課題をもち，一人ひとりが世界の諸問題について調べ学習を行う。ＮＰＯ団体であるハートオブゴールドの方の話を聞くことで，「自分たちにできる国際協力実践活動をしたい」という思いをもたせたい。

「つかむ」段階では，ハートオブゴールドの方の話をもとに，物資支援活動をおこなう。留学生にその活動を認めてもらえることで「さらに活動したい」という意欲がもてると考える。

「追求する」段階では，留学生から聞いたカンボジアの暮らしや子どもたちの様子から，「カンボジアの人たちに喜んでもらえる活動をしよう」という課題をもち，活動したいことやその理由を考える。実際に留学生に何度もアドバイスをもらったり，カンボジアについてくわしく教わったりする。「喜んでもらえる」という観点から自分の活動をくり返し見直すことで，さらにカンボジアの人への思いを深めさせたい。

「生かす」段階では，ハートオブゴールドの方から届けていただいた物資等の報告をしていただく。実際に喜んでもらえたことを実感することで，達成感を味わわせる。同時にこの活動をしたことで，自分たちも幸せな気持ちになれる活動であったことに気付かせる。

さらに自分たちの実践をまとめ，活動の感想を書かせることでこの支援活動が自分たちにとってどんな意味があるのかについて実感させる。そして自分の生活をふり返るきっかけとしたい。

５　研究テーマとの関連

本校の研究テーマ「人，社会，自然などと自分とのつながりに関心をもち，主体的に関わろうとする子ども育成」にせまるために，次のようなことを工夫していく。

（１）自分とのかかわり

『学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり，「これからどうあればよいか」など，自分のかかわり方を考えたりして生活に生かすことができる。』

・カンボジア留学生のアドバイスから，自分の考えた活動を「相手が喜んでくれる」ように見直させることで，「自分だったら」と考える機会をつくる。そうすることで，今の自分の生活を振り返り，見直すことができるようにする。

・支援活動を行った後，カンボジアでの様子を返していただくことで，相手とつながる喜びを実感し，今後も継続的に自分たちにできる活動を考えることで，自分の生活を振り返ることができるようにする。

（２）他者とのかかわり

『相手の立場や気持ちを理解して，かかわることができる。』

・現地の様子を聞いたり相手の様子を伝えてもらうなど，実際に交流することができようにハートオブゴールドとの連携をはかる。

・実際に支援活動を行っているハートオブゴールドの方や，カンボジア留学生から，直接何度も話を聞く機会を設けることで，少しでも相手の立場や気持ちを理解することができるようにする。

・相手に喜んでもらえる活動を考えたり見直したりするために，自分をあてはめて考えさせることで，相手の生活を理解したり，気もちに寄り添ったりすることができるようにする。

６　本時の学習について

本時は，追求する段階「カンボジアの人に喜んでもらえる活動を，自分たちで考えて実践しよう」の第３時である。前時までにチェトラさんから聞いた話をもとに「カンボジアの人たちに喜んでもらえる」という観点で活動したいことやその理由を考えた。本時では，１回目の物資支援活動をもとに，２回目の支援活動について考える。実際にチェトラさんにアドバイスをいただき，自分の活動を見直すことで，さらにカンボジアの人への思いを深めさせたい。

7　本時案

| 目標 | チェトラさんから話を聞くことにより，自分で考えた活動をより深く見直したり，カンボジアへの思いを深めたりすることができる。 | |
|---|---|---|
| 学習活動 | 教　師　の　支　援 | 評　価・備　考 |
| 1　学習を振り返り，本時のめあてを知る。 | ○本時は自分が考えた活動が「カンボジアの人に喜んでもらえるか」をチェトラさんに聞き，自分の活動を見直すことを確認する。 | ・総合ファイル<br>・ワークシート |
| 自分が考えた活動についてチェトラさんにアドバイスをもらい，自分の活動を見直そう。 | | |
| 2　チェトラさんから話を聞く。 | ○はじめに教師が，「１回目の支援活動はカンボジアの人に喜んでもらえますか。」と質問することにより，２回目の活動への意欲を高めたり，児童が質問しやすい雰囲気づくりができるようにする。<br><br>○活動したいことやその理由をあらかじめ考えておくことにより，進んで質問ができるようにする。<br><br>○児童が自分の活動を相手の立場に立って考えられるように，事前にチェトラさんと打ち合わせをしておく。<br><br>○チェトラさんの話から新しい気づきがあった時には，取り上げて考えられるようにする。<br><br>○教わったことに対してさらに深く質問ができている児童を称揚することで，質問への意欲を高め，考えを深めることができるようにする。<br><br>○質問がしにくい児童に対しては教師が質問することにより，考えが深まるよう支援する。 | ○自分が考えた活動についてチェトラさんに質問することができる。<br>（観察・発表） |
| 3　自分が考えた活動を見直す。 | ○最初の考えを書いたワークシートを使うことで，活動やその理由を見直ししやすいようにする。<br><br>○見直した活動を紹介し合うことで，友だちの新たな考えにふれることができるようにする。<br><br>○修正した理由を発表させることで，カンボジアの人たちが喜んでくれる活動になったということを確認する。 | ○質問やアドバイスで自分の考えを見直すことができる。（観察） |
| 4　本時のまとめをする。 | ○ワークシートに本時の振り返りを書かせ，本時のまとめとする。<br><br>○次時では本時で修正した活動をどのように実現していくか考えていくことを知らせる。 | |

６年生　総合的な学習の時間　単元構想（全７０時間）　　藤田中校区６年生共通テーマ『幸せって何』

〈つけたい力〉

○社会の一員としてまわりに働きかけながら自分ができる活動をしようとすることができる。（実践力）ESD⑦

○学習を通して培った考えや思いを今までの自分の生活と重ねて考えたり，「これからどうあればよいか」など，自分のかかわり方を考えたりして生活に生かすことができる。（実践力）ESD⑥

○相手の立場や気持ちを理解してかかわることができる。（かかわる力）ESD⑤

○互いの立場や意図をはっきりさせながら，話し合うことができる。（コミュニケーション力）ESD④

| 段階 | 学習過程 | 児童の学習活動 | 児童の意識の流れ | 他教科との関連 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| ふれる（⑳） | 世界の諸問題について考えよう。 | テーマ<br>『いろいろな国の現状を知り，その問題について考えてみよう』<br>○幸せについて考える。<br>○世界の子どもたちの現実を知る。<br>・DVD・本「世界がもし１００人の村だったら」　・感想や疑問をまとめる。<br>○調べ学習をする。<br>・印象に残っていることや詳しく調べてみたいことに絞ってテーマを決める。<br>○ハートオブゴールドの方の話を聞く。<br>・ハートオブゴールドの活動について知る。<br>・物資支援活動について知る<br>・世界の状況やカンボジアの人たちの生活の様子 | ・幸せ（友だちや家族がいるから，安心で安全な生活だから，笑い合えるから）<br>・幸せじゃない（お金がないから，ほしいものが手に入らないから）<br>⇩ 僕たちには食べ物や住む所があって勉強もできる。この当たり前のことは他の国でも当たり前のことなんだろうか？<br>・ご飯も食べれず，学校にも行けず，働く子どもがいる。<br>・他の国の人と比べると，今の自分が幸せだ。<br>・戦争に巻き込まれる子どももいる。<br>・子どもだけで生活している人もたくさんいる。<br>⇩ 今まで知った世界の現状をもっと詳しく調べてみよう。<br>・どうすれば問題が解決されるのか。<br>・自分たちにできることって何？<br>⇩ 実際に活動している人たちに話を聞いてみよう。<br>・自分たちにとって当たり前のことが，カンボジアでは普通ではない。<br>・学校では生徒が８６０人もいるのにボールが１個しかない。　・人の為に勉強をしている。<br>・子どもの写真は，みんな笑顔でうれしそう。　・カンボジアのために自分たちも何かしたい。<br>・ハートオブゴールドの人はカンボジアを幸せにしている。 | 道徳「世界がもし 100 人の村だったら」<br>「難民に思いをよせて」<br>国語「学級討論会をしよう」<br>※インターネットの検索の仕方を知ろう<br>国語「ようこそ，わたしたちの町へ」<br>道徳「今君たちに伝えたいこと」 | HG<br>HG |
| つかむ（⑩）<br>追求する（⑳） | 国際協力実践活動の計画を立てて、実践活動をしよう。 | テーマ　『カンボジアの人のための支援活動を実践しよう。』<br>○国際協力実践活動の計画を立て，実践活動を行う。<br>・自分たちにできる活動を考える。<br>・第１回支援活動（タオル・石けん・歯ブラシなど）<br>○第１回支援活動を振り返る。<br>・なぜ物資支援活動をしたのか考える。<br>テーマ『カンボジアの人に喜んでもらえる活動を，自分たちで考えて，実践しよう。』<br>○カンボジア留学生の話を聞く。<br>(文化，生活，学校生活，体育について，子ども)<br>○活動内容を話し合い，第２回支援活動を行う。<br>・自分たちが考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるかどうかカンボジア留学生に質問する。<br>・話し合ったことをもとに活動内容を決めて，実践していく。<br>・第２回支援活動（日本語カード・歯ブラシ・ボール･･･etc） | ⇩ 1学期には世界のいろいろな問題を調べた。２学期これからどうしよう。<br>・カンボジアではいろいろなものが足りないからカンボジアへ物資支援をしよう。<br>・自分たちじゃなかなか集まらないからいろんな人へ呼びかけて協力してもらおう。<br>⇩ 振り返ってみよう。みんなはなぜ物資支援活動をしたんだろう？<br>・カンボジアにはタオル・石けん・歯ブラシがないからかわいそう。<br>・カンボジアの人たちに幸せになってほしい。清潔な生活を送ってほしい。<br>⇩ 1回目はハートオブゴールドの田代先生に教えてもらって支援活動をしたよね。<br>もう他に必要なことはないのかな？<br>（カンボジア留学生の話）<br>・ものは少ないけどカンボジアの人は幸せ　・家族のために勉強できることが幸せ　・幸せだけど，ものが少ない<br>・不幸ではなく不便　・カンボジアには体育がない　・安全な生活ができない　・こうなって欲しい<br>⇩ どんな活動が喜んでもらえるかな？<br>・文房具（勉強したい人たちが勉強できるようになるから）<br>・ボール（たくさんの人がサッカーができて喜んでもらえるから）<br>・募金（いろいろなものを買えて喜んでもらえるから）<br>⇩ 自分たちが考えた活動がカンボジアの人たちに喜んでもらえるか留学生に質問しよう。<br>もし自分がカンボジアで生活していたらこの活動は喜べるだろうか？<br>・ボール（夢を実現してほしいから）<br>・文房具（書くものがあれば，勉強をできて喜んでもらえるから。）<br>・手紙（手紙をつけたらよりよろこんでもらえるはずだから。）<br>見直す　Hearts of Gold 留学生のアドバイス<br>⇩ みんなで考えた活動をまとめて，自分たちでできる活動を実践していこう。<br>ボール　募金活動<br>手紙・ペン　物資支援<br>Hearts of Gold カンボジア訪問団 | 国語「平和について考える」<br>道徳「この手に命をうけて」<br>「太平洋の架け橋に」<br>「助け合って生きる」<br>社会「アジア太平洋に広がる戦争」<br>「新しい日本へのあゆみ」<br>算数「資料の調べ方」 | HG<br>第一藤田小学校<br>第三藤田小学校<br>藤田中学校<br>第二藤田小学校<br>第三藤田小学校<br>藤田公民館<br>など |
| 生かす（⑳） | 活動をまとめて『幸せ』について考え、伝えよう。 | テーマ　『　幸せって何？　』<br>○実践を文，写真や映像を活用して分かりやすくまとめ，５年生や地域の人に伝える。<br>○ハートオブゴールドとの交流会<br>・届けていただいた物資等の報告などをしていただく。<br>・これからの生活について<br>・カンボジア留学生（高校生）との交流会<br>○実践活動をまとめる。<br>・その活動が自分たちにとって得るものはあるのかを考える。<br>・今後も継続的に続けることができることを考え，自分の生活を振り返る。 | ・自分たちのできる範囲でやったことがこんな形で役に立つなんてうれしい。<br>・自分たちのがんばった物資が届いてうれしいけどまだ世界には困っているところがある。<br>・たくさんの感想をもらえてやってよかった。<br>⇩ ２回の支援活動を行ってきたけど，この活動はどんな意味があったのかな？<br>・今の自分だけ幸せでもいけない。幸せってそれぞれ違うけど，みんなつながっている。<br>・まずは身近な友達，家族そしてこの藤田からできることを，できる限りやっていこう。<br>・世界中のみんなのために，そして自分のために続けていきたい。<br>・物がある幸せ，気持ちが満たされる幸せ。幸せにもいろいろあるんだ。<br>・「人とつながって，お互いにうれしくなる。」これが幸せなのかな。<br>・これからは勉強がんばろう。好き嫌いも減らそう。ものを大切にしていこう。<br>・カンボジアの人たちに喜んでもらえて，自分たちも何かうれしい。自分たちがカンボジアの人たちにしたことは自分たちにもかえってくるんだ。 | ※プレゼンテーション作成の仕方を知ろう<br>家庭科「自分の生活や地域の生活を見つめてみよう」<br>社会「世界の中の日本と私たち」<br>理科「わたしたちにできることを考えよう」 | HG<br>５年生<br>地域 |

＜６年生総合的な学習の時間『幸せって何？』成果と課題＞

○海外で活動している団体 NPO 法人ハートオブゴールドと連携していくことで，児童はカンボジアの諸問題についてより身近に知ることができ，また支援活動を手伝うことができた。また，様々な形でたくさんの外国の方と接する機会がもてたので，外国を身近なものに感じて，活動することができた。今年度はゲストティーチャーをハートオブゴールドにしぼって交流を行ったので，児童の課題やねらいが明確になり，活動により深く取り組むことができた。

○ハートオブゴールド海外研修員の方から，直接世界の現状についての話を聞くことで，遠くのことだと思っていたことを身近に感じることができた。また，「カンボジアの人たちに喜んでもらえる」ということを常に意識させて活動を考えさせたので，相手の立場や気持ちを考えながら実践活動に取り組むことができた。

○本単元を通して，たくさんの人に出会い，つながり，世界の諸問題について考え，支援活動に取り組むことで，単元のまとめとして，今までの自分の生活を振り返り，これからの生活に生かすきっかけをつくることができた。中には将来の夢として恵まれない人のために役に立つ仕事をしたいと思う児童もいた。

○支援活動後に，ハートオブゴールドや現地の方からの手紙や報告をしていただくなどのつながりをもつことで，単元の最初に児童が感じていた，「ものがある幸せ」「平和な幸せ」に加えて，「人のために役に立つ幸せ」（心情面）に多くの児童が気づくことができた。

○活動を段階に応じて２回に分けたことで，児童の活動のめあてをより明確にすることができた。
１回目は，実際に支援活動をしている人に紹介してもらった活動を行う。
→支援活動の方法を学ぶ。（協力依頼，回収，集計，お礼等）
２回目は，自分たちで考えた活動を行う。
→どんな活動が喜んでもらえるのかを考える。

●単元を通しての課題のもたせ方が弱く，調べ学習が深まらない場面もあったので，来年度の６年生が学習の導入をスムーズにでき，国際についての活動を深めることができるように，今年度の取り組みを５年生にむけて発表し，知らせるようにした。

●今年度は，直接海外の方からお話を聞く機会をもつことができた。引き続きハートオブゴールドと連携しながら，来年度以降もこのような機会を設けていきたい。

●今の自分をふり返ったり，生活に生かすきっかけをつくることはできたが，実際にじっくり取り組むことは今一歩である。手だてについては引き続き研究を進めたい。

●２回目の活動では，個人で活動を考えたが，すべてを実践することはできないため，活動を２つにしぼった。児童一人一人の考えをしっかりと認めることができなかったので，来年度は実践できなかったアイディアも紹介する機会を設定したい。

●支援活動を行うときに，児童から「人がたくさん集まる場面（藤田ふれあい祭り，盆踊りetc）で活動をすれば，たくさんの人に働きかけることができるのではないか」という考えが出たが，日程的に難しく実行に移せなかった。来年度以降そのことも考慮し，見通しをもって計画的に進めたい。

# 岡山市立藤田中学校

# 岡山市立藤田中学校

（1）藤田中学校のＥＳＤの特徴

藤田地区は，１９世紀末以来児島湖を干拓してできた地域である。将来に展望が持てる藤田地区をつくっていくためには，環境の保全と回復とともに，地域の特色を見直し，地域での世代を超えた交流が必要である。また，地域だけでなく，岡山，日本，世界など広い視野を持った生徒を育成したいと考えている。

１．地域に目を向けた生徒の育成のために

ア）　地域の自然・歴史・文化の学習を通して環境や世代間の公平をめぐる問題の背景等を理解する。

イ）　興陽高校の生徒を講師にして草花を育てる「花いっぱい運動」を地域住民と協力して実施する。

ウ）　ボランティア活動として地域の祭りの運営に携わり，生徒会活動の一環として藤田公民館主催の「親子ふれあい理科教室」の運営スタッフとして活動する。

２．広い視野を持った生徒の育成のために

エ）　全校生徒が隣接する南支援学校と１年間にわたって交流を行い，人権教育をすすめる。

オ）　中学２年生で学ぶ広島平和研修と３年生で学ぶ長崎平和研修を通して，原爆の恐ろしさ，戦争の怖さ，平和の尊さを体感して，世界中の人たちといっしょに活動する。

(2)本校ＥＳＤの全体計画

ア）「クリーン活動」プロジェクト

つけたい力　・未来像を予測して計画を立てる力
　　・他者と協力する態度

１年生が出身小学校へ戻って，小学４年生といっしょに地域の清掃活動を行う。

イ）「花いっぱい運動」プロジェクト

つけたい力　・未来像を予測して計画を立てる力
　　・他者と協力する態度

授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。

５月に，藤田公民館の協力を得て，生徒会が主催する「花いっぱい運動」を展開する。

１１月には，本校を舞台に３日間にわたって，地域住民といっしょに「花いっぱい運動」に取り組む。

ウ）地域社会や公民館主催の活動への主体的・共同的参画

つけたい力　・コミュニケーションを行う力
　　・責任を重んじる態度

① 授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。公民館を会場に，生徒会主催の「親子ふれあい理科教室」を年６回実施し，スタッフの一員として参加する。

② 地域のお祭りの運営スタッフとして参加する。

③ 文化委員会が地域の小学校を訪問して児童に読み聞かせを行う。

④ ２年生は，５月に生徒全員が少人数のグループに分かれ地域内の職場で３日間の職場体験を行い，地域発展に必要なことを体験的に学ぶ。

⑤ ２年生有志が，出身小学校へ行って，正門に立ち，朝のあいさつ運動に参加する。

エ） 人権教育プロジェクト

つけたい力 ・コミュニケーションを行う力

・つながりを尊重する態度

１年，２年，３年の総合的な学習の時間に取り入れる。

１年生１２月：南支援学校との交流を行う。

２年生　２月：南支援学校との交流を主体的に行う。

３年生　７月：南支援学校との交流を自主的・共同的に行う。

オ） 平和学習プロジェクト

つけたい力 ・批判的に思考・判断する力

・つながりを尊重する態度

２年，３年の総合的な学習の時間に取り入れる。

２年生１０月：原爆について学習しオープンスクールで発表する。

２年生１１月：広島の地を訪れ，原爆の恐ろしさ，戦争の怖さを学ぶ。

３年生　５月：修学旅行で被災地長崎を訪れ，真の平和について考え国際理解を深める。

３年生　９月：文化祭で中学３年間に学んだことを集大成させて世界に訴える。

(3)特徴的なＥＳＤ事例の紹介

「クリーン活動」１年生が出身小学校へ戻って，小学４年生といっしょに地域の清掃活動を行う。

６月１日　第１回実行委員会　　６月７日　清掃場所探しアンケート　　６月２５日　清掃場所決定

７月１２日　清掃実施　　９月２７日　文化祭で活動発表

成果と課題；地域のゴミ拾いだけにとどまらず，中学生と小学生との交流，さらには地域住民との協働ということで意義があった。中学生にとっては，リーダーシップを発揮する場となり，自尊感情を向上させることに役立った。また，教職員が小中連携の中でそれぞれの学校の様子やそれまでの ESD の取り組みについてお互いに理解を広げることができた。しかし，安全面での配慮が難しく，清掃地域区分に当たる担当教員の少なさが問題となり，来年度以降は実施されないこととなった。

(4)今年度の成果と課題

① 学校としての成長

学校としての成長はあまり伺えない。理由としては，新学習指導要領への転換に伴い，授業数が増えたこと，総合的な学習の時間が減ったことが挙げられる。

② 子どもたちの成長

子どもたちは，地域との交流活動を楽しんでおり，世代間を超えた営みに喜びを見出している。

③ 学校全体として

ＥＳＤカレンダーの基になる資料作りを教科ごとに行うところまでできた。ここから教科を超えて横断的に繋ぐ取り組みへと発展させていくことが来年度以降の課題となる。

南支援学校との交流，２年生での職場体験など学年単位で取り組むものもあるが，個人，有志レベルでの参加が中心的であり，ESD の視点から行事を見直していくだけでは限界がある。

平成24年度　岡山市立藤田中学校ESDカレンダー（理科）
第1学年

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A 基礎教育 | ルーペ・顕微鏡の使 | | | | | | | | グラフのかき方 | | | |
| B 自然環境・エネルギー教育 | 身近な生物を観察し | 葉のはたらき | 植物の分類 | プラスチックを区別する | | 物質が水にとけるとは | | | | 火山活動と岩石 | 地震と災害 | 大地の変動 |
| C 地域社会文化教育 | | | | | | | | | | | | |
| D 人権教育 | | | | | | | | | | | | |
| E 国際理解平和教育 | | | | | | | | | | | | |

A基礎教育（コミュニケーション能力・多面的総合的な見方・論理的思考）

平成24年度　岡山市立藤田中学校ESDカレンダー（理科）
第2学年

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A 基礎教育 | | | | | | | | | | | 気象観測のしかた | 天気図の読み方 |
| B 自然環境・エネルギー教育 | 生物と細胞 | 動物のからだのつくり | 動物の分類 | 生物の変遷と進化 | | | ものが燃えるとは | わたしたちのくらしと化学変化 | 電気のエネルギー | 身近な静電気による現象 | 気象の観測 | 日本の天気 |
| C 地域社会文化教育 | | | | | | | | | | | | |
| D 人権教育 | | | | | | | | | | | | |
| E 国際理解平和教育 | | | | | | | | | | | | |

A基礎教育（コミュニケーション能力・多面的総合的な見方・論理的思考）

平成24年度　岡山市立藤田中学校ESDカレンダー（理科）
第3学年

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A 基礎教育 | | | | | | | | | | | | |
| B 自然環境・エネルギー教育 | 生物の成長と生殖 | | | | | 酸、アルカリとイオン | | 仕事とエネルギー | | 季節の変化 | 科学技術と人間 | 自然と人間 |
| C 地域社会文化教育 | | | | | | | | | | | | |
| D 人権教育 | | 遺伝の規則性と遺伝子 | | | | | | | | | | |
| E 国際理解平和教育 | | | | | | | | | | | | |

A基礎教育（コミュニケーション能力・多面的総合的な見方・論理的思考）

平成24年度　岡山市立藤田中学校ESDカレンダー（社会）
第1学年

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A 基礎教育 | 【歴史】人類の登場から文明の発生<br>【歴史】宗教の誕生とひろまり<br>【地理】暑い地域のくらし<br>【地理】寒い地域のくらし<br>【地理】乾燥した地域のくらし | 【地理】高地のくらし | 【地理】世界の住居、衣服とその変化<br>【地理】世界の食文化とその変化<br>【地理】宗教と生活のかかわり | | | 【歴史】東アジアの中の倭（日本）<br>【歴史】【歴史】中国にならった国づくり<br>【歴史】倭国と朝鮮の関係<br>【歴史】ヤマト政権と仏教の伝来 | | 【歴史】律令国家をめざし<br>【歴史】大陸の影響を受けた文化<br>【歴史】芽ばえる日本独自の文化 | | 【歴史】各地で生まれる武士<br>【歴史】海をこえてせまる元軍<br>【歴史】東アジアの新体制と倭寇<br>【歴史】琉球とアイヌの人々がつなぐ交易 | | 【歴史】イスラムの拡大とヨーロッパの変化<br>【歴史】宗教改革<br>【歴史】大航海時代<br>【歴史】信長・秀吉による全国統一 |
| B 自然環境・エネルギー教育 | | | | | | | | | | | | |
| C 地域社会文化教育 | | | | | | 【歴史】古墳の出現<br>→造山古墳（岡山市）<br>→作山古墳（総社市） | | | | | | |
| D 人権教育 | | | | | | | | | | | | |
| E 国際理解平和教育 | | | | | | 【地理】アジア州 | 【地理】ヨーロッパ州 | 【地理】アフリカ州<br>【地理】北アメリカ州 | | 【地理】南アメリカ州<br>【地理】オセアニア州<br>【地理】世界のさまざまな地域 | | |

基礎教育（コミュニケーション能力、多面的総合的な見方、論理的思考）

平成24年度　岡山市立藤田中学校ESDカレンダー（社会）
第2学年

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A 基礎教育 | 【地理】暑い地域のくらし<br>【地理】寒い地域のくらし<br>【地理】乾燥した地域のくらし<br>【地理】高地のくらし | | 【地理】世界の住居、衣服とその変化<br>【地理】世界の食文化とその変化<br>【地理】宗教と生活のかかわり | | | | | | | | | |
| B 自然環境・エネルギー教育 | | | | | | | | | | | | |
| C 地域社会文化教育 | | | | | | 【歴史】百姓一揆と差別の強化<br>→渋染め一揆 | | | | | | |
| D 人権教育 | 【歴史】武士と町人<br>きびしい身分による差別<br>【歴史】アイヌ民族と交易 | | | | | 【歴史】琉球王国<br>【歴史】アイヌ民族と日本 | | 【歴史】近代革命<br>→アメリカの独立<br>【歴史】南北戦争 | | 【歴史】ヨーロッパのアジア侵<br>【歴史】明治維新<br>→古い身分制度の廃止 | | 【歴史】韓国の植民地化<br>→皇民化政策<br>→創氏改名 |
| E 国際理解平和教育 | | | 【地理】アジア州<br>→中国、東南アジア、インド | | | 【地理】ヨーロッパ州 | 【地理】アフリカ州 | 【地理】北アメリカ州 | | 【地理】南アメリカ | 【地理】オセアニア | |

基礎教育（コミュニケーション能力、多面的総合的な見方、論理的思考）

平成24年度　岡山市立藤田中学校ESDカレンダー（社会）
第3学年

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A 基礎教育 | 【公民】現代社会と私たちの生活 | 【公民】わたしたちの生活と文化 | 【公民】現代社会の見方や考え方 | | | | | 【公民】現代の民主政治と社会 | 【公民】わたしたちのくらしと経済 | | 【公民】国際問題とわたしたち | |
| B 自然環境・エネルギー教育 | | | | | | | | | | | | |
| C 地域社会文化教育 | | | | | | | | | | | | |
| D 人権教育 | | | 【歴史】日中全面戦争<br>→南京大虐殺 | | | 【公民】人権尊重と日本国憲法<br>【歴史】ドイツの占領政策<br>→ユダヤ人虐殺（アウシュビッツ収容所） | | | | 【歴史】日本国憲法 | | |
| E 国際理解平和教育 | 【歴史】世界恐慌とブロック経済 | 【歴史】ファシズム | 【歴史】満州事変 | | | 【歴史】第2次世界大戦 | 【歴史】アジア太平洋の戦い<br>→朝鮮人強制連行<br>→従軍慰安婦問題 | 【歴史】日本の降伏<br>→原子爆弾 | | 【歴史】<br>国際連合と冷戦<br>植民地と解放とアジア<br>平和条約と国際連盟<br>デタントと冷戦後の世界<br>→地域紛争 | 【歴史】世界の一体化と日本の役割り<br>→南北問題、PKO<br>【公民】国際社会と世界平和 | |

基礎教育（コミュニケーション能力、多面的総合的な見方、論理的思考）

# H24年度　藤田中学校　総合年間計画

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 地域・自然 | | 閑谷研修<br>・岡山の自然、歴史、文化に触れる<br>・藤田（日本）の自然、歴史、文化を知ろう | | クリーン活動<br>・小学4年生といっしょに地域清掃を行う | | 文化祭<br>・藤田（日本）の自然、文化、歴史について発表しよう | | 花いっぱい運動<br>・地域の人たちと共に働こう | | | 職業調べ<br>・地域を支える人たちを知ろう |
| | 人・思いやり | | | | | | | | | 交流学習<br>・思いやりの心を持とう | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 地域・自然 | | 花いっぱい運動<br>・地域を花でいっぱいにしよう | | | | | | 花いっぱい運動<br>・地域の人たちと共に働こう | | | |
| | 人・思いやり | | | | | | 文化祭<br>・人権について発表しよう | | | | | 交流学習<br>・思いやりの心を持とう |
| | 社会貢献 | | 職場体験<br>・地域発展に必要なことを体験から学びとろう | | | | | 参観授業<br>・広島平和学習について | 広島平和研修<br>・世界遺産を知ろう | | | |
| 3年 | 地域・自然 | | 花いっぱい運動<br>・地域を花でいっぱいにしよう | | | | | | 花いっぱい運動<br>・地域の人たちと共に働こう | | | |
| | 人・思いやり | | | | 交流学習<br>・思いやりの心を持とう | | | | | | | |
| | 社会貢献 | | 修学旅行<br>・平和について考え、国際理解を深めよう | | | | 文化祭<br>・世界に訴えよう | | | | | |

・わくわく親子ふれあい理科教室の講師（本番は6回，準備会は4回実施）
・地域のお祭りなどでボランティア活動
・小学校で絵本の読み聞かせ

○地域の自然・歴史・文化の学習プロジェクト
・全学年対象　有志参加形式
　研究課題「ＥＳＤわくわく親子ふれあい理科教室」
　＜つけたい力＞　コミュニケーションを行う力，つながりを尊重する態度
【長期の教育（活動）目標】
　地域の誰もが気軽に声を掛け合えるような環境や，教育問題に対する建設的な意見交換の場をつくること。
　地域社会にあたたかい人間関係をつくり，学校教育・家庭教育・社会教育の機能回復，潜在的な地域教育力の活性化を目指すこと。
【単年度の教育（活動）目標】
　ボランティア活動への参加を希望する藤田中学校の生徒が，受講生の親子に対して野外観察会や天体観察会，自然のものを使った工作などの指導ができるよう，指導者としての技術や態度を身につけさせること。
　受講生の親子が，講師として活躍するボランティア中学生の姿に共感しながら，地域の自然のすばらしさや人々のつながりの大切さを再確認すること。

実践；５月　６日（日）　春の野外観察会（予備観察）
　　５月１２日（土）　春の野外観察会（本番）
　　８月　４日（土）　夏の野外観察会（予備観察）
　　８月１１日（土）　夏の野外観察会（本番）
　　１１月　４日（日）　秋の野外観察会（予備観察）
　　１１月１０日（土）　秋の野外観察会（本番）
　　１２月　８日（土）　自然の素材を使った工作
　　２月　２日（土）　冬の野外観察会（予備観察）
　　２月　９日（土）　冬の野外観察会（本番）

場所；野外観察会…岡山市立藤田公民館の大会議室と公民館周辺。
　　工作…公民館の大会議室。
参加者；予備観察会…藤田中学校有志（７０人）と卒業生有志（２５人）。
　　本番…藤田中学校有志と卒業生有志，受講生の親子（１００人）。

ＥＳＤの視点を取り入れたところ；
　環境や食糧問題などを解決する人材育成の視点から，藤田の広大な水田を将来も維持するため，特に「水辺で生活する動植物」にポイントをおいて観察した。

生徒感想；
　水辺に生えるヤナギダテの葉っぱをかじって，とても辛かったのが，楽しかったです。
　受講生の親子の前で生き物の観察をしたり，いろいろな動物をいっしょに観察して，すごく楽しかったです。
　自分自身が教師になってみて，よい経験になったし楽しかった。勉強になった。
当日取材に来た新聞記者の感想；
　普段意識していなかったが，さまざまな鳥や植物がいることに驚いた。誕生して１００年の地区だが，鳥は外からやってきたとしても，植物はどのように植生したのだろうか，という疑問を見つけた。地域の生物多様性の一端に子どもたちが触れることで，生きたＥＳＤが実践できていると思った。

受講生　小学生感想；

今日は，お姉ちゃんたちにたくさん教えてもらったのがうれしかったです。

いろいろな植物に会えて，うれしかったです。

受講生　保護者；

部活動と勉強だけにならず，地域活動に参加してくれる中学生がこんなにいてくれて頼もしいです。

ミサゴという鳥を初めて見ました。図鑑で調べます。中学生の方々の心遣いがうれしかったです。

普段何気なく見ている鳥や植物をじっくりと学び，観察できてよかったです。中学生のお兄さん，お姉さんの姿にいつも感心します。小学生の子どもたちが「あんな中学生になりたいなぁ」と思える，いい機会だと思いました。

成果と課題；親が我が子の教育に過度の関心をもっていたり，反対に無関心であったりすることが，社会問題となっている。そこには，私的関心や私的利害に偏り，公のつながりをもちにくい社会意識が存在している。そのような意識が，周囲におかまいなしの自己中心的な子どもを育て，簡単にキレたり，無関心・無感動・無気力な人を増加させる原因になっているともいわれている。

このような社会環境の下で，地域の誰もが気軽に声を掛け合えるような雰囲気づくりをしたり，教育問題に対する建設的な意見交換の場をつくることが求められている。「わくわく親子ふれあい理科教室」では，地域社会にあたたかい人間関係をつくり，学校教育・家庭教育・社会教育の機能回復，潜在的な地域教育力の活性化を目指している。学ぶことは「すばらしい，やりがいがある，幸せなこと」と，まず自分が感じられる体験をし，それを，家族や友人，身の回りの人々などに伝え広められるようにしたいと考えている。

「わくわく親子ふれあい理科教室」は，地域の公民館を拠点にしている。そこは，自然公園や博物館，研究施設のように，保存・整備された環境ではない。しかし，生活地域内で活動を行うことには，家庭内や近所の共通話題になりやすいという利点がある。一人ひとりが地域の自然の中で，また，そこに暮らす人々の一員として生活していることを意識した学習は，受験競争の手段という位置づけの「学び」を，生きることと有機的に結びついたかけがえのないものに変えると考えている。

「わくわく親子ふれあい理科教室」では，学びの材料として理科を使っているが，理科以外の内容を利用しても，地域教育力を活性化させる同様の活動ができると思われる。

ボランティア活動への参加を希望する藤田中学校の生徒に指導者としての技術や態度を身につけさせることや，受講生の親子が，講師として活躍するボランティア中学生の姿に共感しながら，地域の自然のすばらしさや人々のつながりの大切さを再確認することについて，中学生や受講生親子の言動や感想などから，目標はおおむね達成されていると推測される。

地球規模の環境問題や食料問題などを解決する人材育成を目指す持続発展教育（ＥＳＤ）と，わくわく親子ふれあい理科教室の目的である「地域の誰もが気軽に声を掛け合えるような環境や，教育問題に対する建設的な意見交換の場をつくること。地域社会にあたたかい人間関係をつくり，学校教育・家庭教育・社会教育の機能回復，潜在的な地域教育力の活性化を目指すこと。」の共通点を大切にしながら，次世代を担う人材の育成に，今後も邁進していきたい。

○地域の自然・歴史・文化の学習プロジェクト

・１学年

研究課題「クリーン活動」

＜つけたい力＞　コミュニケーションを行う力，つながりを尊重する態度

内容；出身小学校に戻り，小学校４年生，地域住民といっしょに環境美化清掃に取り組む。

計画と実践；

６月　１日　第１回実行委員会
６月　７日　清掃場所探しアンケート
６月１１日　第２回実行委員会（清掃場所について）
６月１４日　小中教職員打ち合わせ
６月２５日　清掃場所の決定
　　清掃場所の管理者もしくは町内会長へあいさつ，許可を得る。
　　名簿作成，準備物確認
７月　４日　清掃内容，準備物表作成
７月１１日　最終打ち合わせ
７月１２日　14:30～　各清掃場所で代表あいさつ
　　14:35～　クリーン活動
　　15:10～　分別作業
　　15;25～　あいさつ，解散
７月１３日　振り返り
９月２７日　文化祭で活動内容をまとめ展示発表

参加者；第一，第二，第三藤田小学校４年生（１３０人）
　　藤田中学校１年生（１２０人）
　　地域ボランティア（２０人）

ＥＳＤの視点を取り入れたところ；
　地域清掃活動を通じて，環境問題を考える。
　地域の小学校と連携することで，リーダーシップを養う。

成果と課題；
　初めは，小学校との連携をとるのが難しかったが，話し合いを進めていくうちに，それぞれの学校の様子やそれまでのＥＳＤの取り組みなどが分かっていった。
　小学校ごとに小学校の状態や交通状況に応じた活動を行った。
　国道３０号線沿いの活動になるので，小学生の安全が確保しにくい。

○地域の自然・歴史・文化の学習プロジェクト
・全学年対象　有志参加形式
研究課題「ＥＳＤ花いっぱい運動」
＜つけたい力＞　コミュニケーションを行う力，つながりを尊重する態度

内容；地域住民といっしょに花植えを行う。

実践；５月２７日（日）　岡山市立藤田公民館にて
「はるかのヒマワリ」の種まき。
生徒と地域の方々との交流会。
藤田中生徒（２０人），地域住民（１５人）

１１月２０日（火），２１日（水），２２日（木）
本校中庭，第２理科室

プランターの土づくりと花植え。
生徒と地域の方々との交流会。
藤田中生徒（１２０人），地域住民（４５人）

ＥＳＤの視点を取り入れたところ；
地域住民といっしょに花を植える活動を通して，郷土愛を育てるとともに，世代を超えたつながりを重視した。

生徒感想；
混ぜてほぐした土を使って，花を植えて，とても楽しかったです。
みんなといっしょに汗を流せたので心も体もハッピーになることができました。
わかりやすく教えてくださり，長年やってきた知恵を授けてくれて，今日一日とてもいい経験になりました。
昔の小学校や中学校の話，便利になったものなどが聞けて，とてもおもしろかったです。
地域の方々と話す機会がなかったので，しゃべってみて楽しかったです。
地域住民の感想；
生徒たちがしっかりと動いてくれて，手伝う間もなく終わってしまいました。生徒たちの楽しそうにしている顔が見られてよかったです。
最近の中学校での生活について，自分たちのときとはかなり差があるのを感じました。
私の中学校時代はどうだった等の質問を受けて，久しぶりに中学・高校時代を思い出して楽しい時間を過ごさせていただきました。

成果と課題；
地域の方々とつながりを持つことで，地域の中学生に対する悪いイメージを払拭することができている。これからも継続してやっていくことが課題だと思う。また，１回きりの花いっぱい運動への参加だけでなく，植えた花に水やりを行うなど継続的な取り組みもできるようになってほしい。そして，地域自然環境に優しい心を育てていきたい。

○ＥＳＤカレンダー作成に当たって
①５つの重点課題を設定
　Ａ　基礎教育（コミュニケーション能力，多面的総合的な見方，論理的思考）
　Ｂ　自然環境・エネルギー教育
　Ｃ　地域社会文化教育
　Ｄ　人権教育
　Ｅ　国際理解平和教育

②教科ごとに５つの観点に当てはまりそうな単元を学年別に抽出

③学年別に教科を超えた枠組みを構築していく。
　教科間の横断的なつながりを考える。

④学年を超えた縦断的なつながりを考える。

⑤総合的な時間の年間計画を柱とするＥＳＤ活動とリンクさせていく。

今年度は，①②の段階まで進んだ。来年度以降は，③から順次取り組んでいく必要がある。
今年度の取り組みでわかったことは，教科による特性が顕著に表れていることである。例えば理科であれば，Ｂ自然環境・エネルギー教育に関連する単元が圧倒的に多い。また，数学科とＥＳＤとのつながりを見出すことは難しく，熟練した技を必要とする。社会科に関して言えば，５つの重点課題をまんべんなく含んでおり，全ての授業をＥＳＤと絡めて進めることもできそうである。

③以降の進め方の一つの方向として，国語科でＡ基礎教育の充実を図り，理科・技術科でＢ自然環境・エネルギー教育を発展させ，技術・家庭科，音楽科，美術科でＣ地域社会文化教育，家庭科と保健体育科でＤ人権教育を，Ｅ国際平和教育においては，英語科を中心に音楽科，美術科とも連携していくといったような大雑把だが中心となる教科をある程度決めて取り掛かるのが手っ取り早いように思える。
そして，何よりも大切なことはＥＳＤカレンダーを作成する意義を全ての教職員が共有していることである。これをなくしてＥＳＤカレンダーだけを形式上作成しても意味はない。じっくりと時間をかけて話し合い，よく吟味し，実現可能な取り組みにしていかなくてはいけない。ＥＳＤを絡めた授業はどのように行うのか。教科間の連携はどのようにしていくのか。総合的な時間と結び付けた体験的な活動へと繋げていくためにはどうすればいいのか。
ＥＳＤカレンダー作成に当たって，かつて経験したことのないような大きな課題にぶつかったような気がする。今までは，教科独自に考えてきたことを今度は教科間でお互いに意見交換し結び付けていかなくてはいけない。教科単独でＥＳＤを絡めた授業を行うのも儘ならない状況で果たしてそれが可能であるのかどうか。今の時点では，ＥＳＤをどのように授業に取り入れていけばいいのか，しっかりと実践を積んでそれから教科間の連携を図っていっても遅くはないように思える。

# 岡山県立興陽高等学校
# 岡山市立藤田公民館

+
Education for
Sustainable
Development

# 平成24年度藤田地区ESD実践発表会資料

岡山県立興陽高等学校

1　はじめに

小学校では、総合的な学習の時間にＥＳＤ活動を取り入れ、年間活動計画を立て活動している。本校（農業科）は、年に数回この活動に参加している。

2　藤田地区三小学校共通テーマ

「藤田に農業は必要か。」小学校５年生の取り組み。藤田に愛着や誇りを持つことができる。

3　活動の紹介

（１）環境に優しい稲作の実践（環境保全型農業の推進）

第一、第二、第三藤田各小学校は５年生での取り組み。

環境教育、地域の持続可能な農業の実践

○アヒル・アイガモ農法の実践（６～１１月）

・農業科３年生課題研究班、農業科２・３年生作物類型生徒

・栽培の実践　約１６ａ専用ほ場　完全有機栽培　アヒル約３０羽飼養

・品種　ヤシロモチ、朝日

7/4（水）第三藤田小学校５年生

7/6（金）第二藤田小学校５年生見学、交流　本校　　農業科２年生対応

7/14（木）第一藤田小学校５年生見学、交流　本校農業科２年生対応

（２）興陽菜の花エコプロジェクト

第一藤田小学校は５年生。第三藤田小学校は４年生の「環境学習の取り組み」で参加

植え付け、収穫、搾油を体験。　継続的、参加体験型農業の学び

○ナタネ栽培の実施（前年９～６月）　畑作（５０ａ）、水田裏作（５０ａ）

・小学生体験交流活動　於：本校ほ場他

・6/14(木)ナタネ収穫体験搾油体験　第三藤田小学校４年生　農業科３年対応

・6/15（金）ナタネ収穫体験搾油体験　第一藤田小学校５年生　農業科３年対

・10/25(木)　ナタネ植え付け体験　第三藤田小学校４年生　ナタネ油の提供

（翌年の４年生が収穫搾油体験を予定）　農業科３年対応

（３）フィールドワーク　地域の農業を知る。２０年後の農業を考える

第一、第二、第三藤田各小学校は５年生での取り組み。

１０月５日にフィールドワークとして地域農家を訪問し、「地域の農業」を小学生が追求する活動に、本校農業科２年生がサポートスタッフとして参加した。事前交流と農家にインタビューする質問事項も一緒に考えることができた。

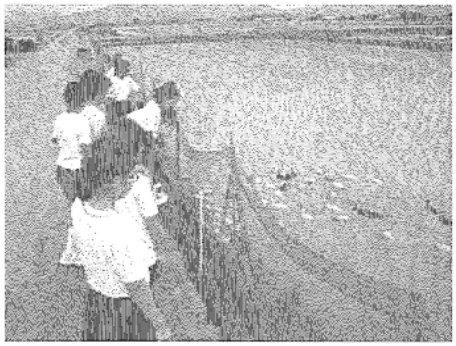
第一藤田小学校５年生　・赤トンボ有機農家他訪問

第二藤田小学校５年生　・稲作農家他訪問

第三藤田小学校５年生校内他訪問　農業についてインタビュー

稲作についての質問や取り組んだこと。苦労していること等について

＜活動の様子＞



アヒル農法の学習（第二藤田小）

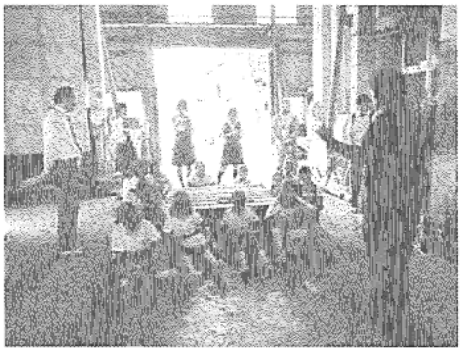
アヒル農法の学習（第三藤田小）

ナタネの収穫体験（第一藤田小）

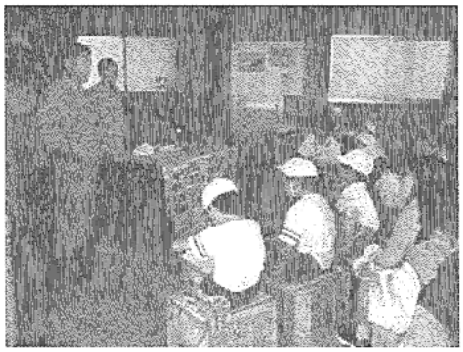
搾油体験（第三藤田小）

ナタネの植え付け体験（第三藤田）

菜種油の提供　（第三藤田小）



稲作農家訪問（第二藤田小）



有機栽培農家訪問（第一藤田小）

# 平成２４年度岡山市立藤田公民館のESD実践

藤田地区は、児島湾の干拓事業により生まれ，以来県南の穀倉地帯として地域特性を生かした農業が展開されてきた。不況・大洪水・塩害・戦争など困難を乗り越え65年の歳月を経て完成した土地であり、住民の中でも高齢者は先祖が苦労して開拓した土地に強い愛着を持っている。こうした郷土愛を子どもや若い世代に継承していき、住んでいてよかったと思える地域づくりにつなげていきたい。

## １．取り組みテーマ

（１）藤田の特性を生かした「食と農」「水と農地」にフォーカスした事業
（２）干拓地ならではの防災・減災教育
（３）学校のESDに関する側面的支援

## ２．具体的な事業名

「畦道講座」昔ながらのお米作りの体験・辺境のウオーキング等を通して、先人の生活を偲び、土地の誕生を祝う。同じ土地に暮らす住民の一体感を創出した。

「農家の手作り糀でおいしいランチ」畦道講座で学んだ住民が講師となる学習を実施。知の循環型社会の形成を行った。

「藤田から世界へ～ESD ってなんだろう～」藤田のよいところ・楽しい思い出・藤田で尊敬する人などをワークショップで出し合い、これらを次世代につなぐ役割を確認した。

「地球とわたしをゆるめる暮らし」子育て世代をターゲットに、これからのエネルギー利用についての学習機会を提供した。

「農家が教えるカラダにやさしい家庭料理」JA 婦人部の指導で、藤田産の野菜を材料にした料理教室を実施し、地域で健康増進活動を広げる仲間づくりを促進した。

「興陽高校のお姉さんと朝ごはんづくり」興陽高校の生徒を講師に料理教室を実施した。

「ふじた自由市場」ロビーにリサイクルコーナーを設置し、洋服や食器などの再活用を促進した。

「わくわく親子ふれあい理科教室」中学生が指導する自然観察会の支援を行い、青少年の健全育成に寄与すると同時に、自然環境豊かなふるさとへの愛着形成を図った。

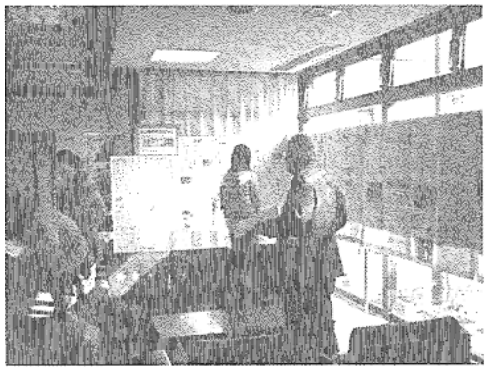
「小学生の学習展示」ロビーに展示した総合学習の掲示物を元に住民と対話しESDの理解を広げた。

「地域応援人づくり講座」藤田の地盤の特性等を学び、災害時に活躍できる人材養成に寄与した。

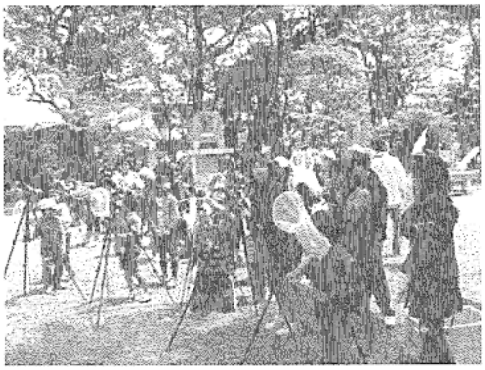
「藤田中学校花いっぱい運動」「クリーン活動」地域住民と中学生が地域美化の作業を通じて相互に知り合い、親しい雰囲気をつくることができた。

畦道講座

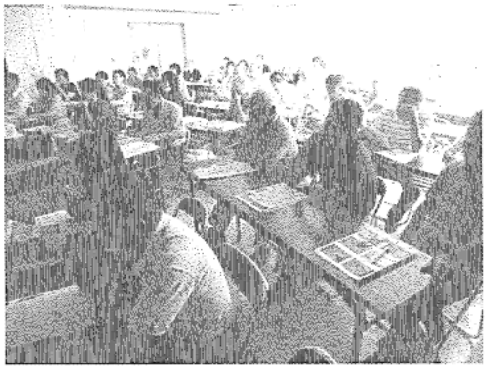
農家の糀でおいしいランチ



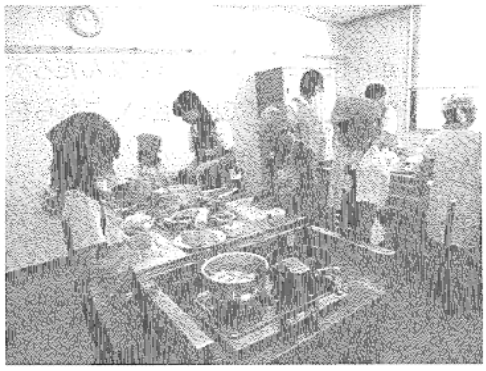
小学生の学習展示



わくわく親子ふれあい理科教室



地域応援人づくり講座



興陽高校のお姉さんと朝食づくり

## ３．今後の課題

平成２６年度にユネスコと日本国政府による「ＥＳＤに関するユネスコ世界会議」が、岡山市と名古屋市で開催され、公民館では、主に「公民館・ＣＬＣ会議」に関わり、その成功に向けて、平成２３年度から「地域ワークショップ」や「草の根ＥＳＤ講座」などに取り組んでいるが、こうした機会を捉えて、ＥＳＤの視点による講座の点検と再構成に取り組み、地域住民のＥＳＤ活動に対する理解促進を図りながら、公民館活動の活性化を進める必要がある。

今後、ＥＳＤ活動団体や国際交流推進を目指すＮＰＯ法人などとの連携を強めるとともに、国際的な視点を持った講座の企画や、世界会議に参加されるＣＬＣ関係者などの受入れを想定した「おもてなし」や「エクスカーション」（交流を伴う視察）に対応することが求められており、運営委員・講座生・地域住民などと協働で企画・運営体制づくりと事業展開を行う必要がある。

# お わ り に

学校では，教科教育における基礎的能力の育成及び自主・自立の力，即ち「生きる力」を育てる活動の具体化を図るため，教育実践及び教育研究を行っています。

昨年度は，児童生徒にESDで身につけさせたい力を確認し，「ESDの理念（『つながり』を通して，体験し，考え，感じて新しい価値観を身につけ実践する力を培う）」にもとづき各教科がどのような内容で，どのように関われるかを試行錯誤しながら，３年生から６年生まで各学年の単元構想表を作成しました。

そして，今年度は，教科はもとより総合的な学習の時間との関係をさらに整理，統合しながら，ESD の基本的概念をもとに学校の教育活動を豊かにすることに重点をおきたいと考えました。まず，各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間等々の学校活動を有機的，有効的に結び続け，学年や年間の枠組みを見直すために，小学校１年生から中学３年生までの９年間のESDカレンダーの作成を考えました。これにより学年の縦の関係と，各教科と特別活動の横の関係の中で，ESD の活動が学年や月々にどのように展開すればよいかを明確にできるのではと期待しています。また，教員がこの作業を通し一つのことに力を結集し，ESD カレンダーを作成したことは，これからの藤田地区の ESD の活動を進める上で大きな意義があったと考えます。

藤田地区のこの1年間の研究活動の中で，ESDを視野に入れたこれからの学校活動に影響する大きな出来事は，ユネスコ・スクールへの加盟申請の許可が３小学校と中学校におりたことです。これにより，大学との連携だけでなく，国内はもとより海外の同世代の児童生徒との交流等，ますます活動が活発になることが期待できます。

今，中学校区の児童生徒の交流や地域の催しにもESDを視野に入れたテーマ設定が行われ，徐々にではありますが，児童生徒への活動への浸透が進んでいると思われます。私たちはさらに児童生徒たちの心の中にESDの理念がいきとどくように教員が後押しをしながら，児童生徒と共に学校づくりを行いたいと考えています。

今回の「研究のまとめ」は，「”ESD？”。そりゃ，なんだぁ？」からスタートして，まだ３年目の実践・研究の途中です。今年度の藤田公民館における藤田地区ESD実践発表会において，日頃よりご指導いただいている岡山大学大学院教育学研究科の川田力先生から「地域とともに３小学校が連携をとり，同じテーマで協議・研究実践をして，中学校につなげている。岡山県というより全国レベルでみても，藤田地区はESDの取り組み先進地です。」というれしいメッセージをいただきましたが，藤田地区のこれからのESDの活動推進に生かすべく皆様から様々なご感想，ご意見をお待ちしています。

今後ともよろしくお願いします。

平成２５年３月
岡山市立藤田中学校
校　長　　山　下　道　徳

## 指導・支援

岡山大学大学院教育学研究科　准教授　川田　力　先生
岡山大学大学院教区学研究科ＥＳＤ協働推進室コーディネーター　柴川　弘子　先生
岡山大学ＥＳＤ協働推進室
岡山市教育委員会事務局指導課
岡山市ＥＳＤ最終年会合準備室
ＪＡ岡山藤田支所
藤田中学校区地域協働学校連絡会
藤田ＥＳＤ地域連絡会
学校支援ボランティア
岡山県立興陽高等学校
岡山市立藤田公民館

## 研究同人

岡山市立藤田中学校
岡山市立第一藤田小学校
岡山市立第二藤田小学校
岡山市立第三藤田小学校

## 平成２４年度事務局

岡山市立第三藤田小学校
〒７０１－０２２１
岡山市南区藤田１７５７
ＴＥＬ　（０８６）２９６－２４７９
ＦＡＸ　（０８６）２９６－５２４３
EMail　fujita3s@city-okayama.ed.jp